京城日報 夕刊 一月四日

陛下親臨の下に政始式厳かに行はる

……けふ宮中東二の間に於て

【東京電話】御講書始の儀畢るとともに、毎年新春に行はせらる御恒例の政始の式は四日午前十時から宮中東二の間において御挙行になつた。この日御儀に参列する光栄の人は十数氏に止まり田中首相、原内相以下各国務大臣、倉富枢府議長、一木宮相等はいづれも通常礼装にて九時四十分御所の御前に参集、天皇陛下は陸軍式大元帥の御通常御服に大勲位副章を佩びさせ、伊藤式部長官の御前行、牧野内府、珍田侍従長、奈良侍従武官長、侍従、同武官を従へさせられて[illegible]正面玉座に臨御、[illegible]侍従、同武官は御帳外に控へて御儀に侍り、田中首相が恒例として陛下の御前に参進うやうやしく昭和三年中の伊勢神宮その他神宮の御恒例祭典を滞りなく遂行せられた旨並に各官庁の政を奏上して退下、引続いて一木宮相は勅旨の御大典を始め盛典の諸事について詳さに奏上するところあり、陛下は一々これを御聴取と御満悦あらせられた旨を承る。かくて御儀は滞りなく御終了、陛下には出御のときに同じき[illegible]にて[illegible]入御遊ばされた

明五日は新年御宴會

宮中豊明殿に於て

洩れ承るその日の御盛儀

【東京電報】朗らかに明けて昭和の御四年を数へた新春は、葵光殿に輝き、五日は御恒例の新年御宴を宮中豊明殿において御催しになることこそ目出度き限りである。この晴れのお招に預かつて参内する文武顕官[illegible]を浴びて馬車、自動車、騎馬をつらね、十一時四十分といふに秩父宮雍仁親王、高松宮宣仁親王、閑院宮載仁親王、同妃、伏見宮博恭王、久邇宮邦彦王、[illegible]、賀陽宮恒憲王、久邇宮朝融王、同朝融王妃、梨本宮守正王、朝香宮鳩彦王、東久邇宮稔彦王、[illegible]

各皇族 [illegible]

白耳義大使バッソンピエール、イタリー大使アロイージ男、英國大使サージョンチレー氏、佛國大使ドービー氏、北米合衆國公使、臨時代理大公使並に東郷、山本、両大勲位、田中首相、倉富枢府議長、牧野内府、小川鉄相以下各国務大臣、平沼枢府副議長、水野各顧問官、[illegible]長以下各顧問官、元帥、親任官、徳川、元田貴衆両院議長、親任官待遇、勅任官、一等高等官、一等以下勅任待遇以上約[illegible]千名は何れも大礼服又は正装美々しく参入を終り、それぞれ式部官の誘導にて御集所より豊明殿千種の間の所定の位置に着席、天皇陛下の出御を待つ[illegible]まばゆきばかりの宴殿進めの[illegible]。天皇陛下にはこの日陸軍式御正装に大勲位菊花頸飾[illegible]その他の勲章を佩びさせ、[illegible]

豊明殿 正面の御座に[illegible]御、陛員それぞれ本位につけば、陛下には御宴御始前、[illegible]の趣に[illegible]なる勅語を賜ひ、田中首相は総理を代表しベルギー大使バッソンピエール氏は外國使臣を代表してそれぞれ奉答[illegible]て御宴に入らせられ陛下は皇族方始め内外國使臣等と御歓談中[illegible]に親く御酒御饌を召され、[illegible]の無礼講のことほぎ、[illegible]の御饌を[illegible]する御権宜に[illegible]る。なほこの間豊明殿南庭に設けある舞楽場にては宮内省楽部の伶人の[illegible]なき「萬歳楽」年の初めを祝ぐ「延喜楽」の雅楽を奏して御感興を添へ奉り、午後零時五十分頃が代の奏楽裡に陛下が入御遊ばすや、[illegible]次退下し、晴れの御宴を終らせらるゝ御予定の由[illegible]

總督府御用始め

四日午前十一時本府第一會議室にて

鮮銀の小異動

鮮銀では十二月三十一日付をもつて左の如き異動を行ひ四日発表した

鎮南浦支店支配人　安達　欽犬
京城総裁席勤務を命ず
平壌支店支配人代理　齋藤岳一郎
鎮南浦支店支配人を命ず

伯、子、男爵に賜餐の御沙汰

なほこの日、伯、子、男爵及び有位帯勲者に對し、かしこき辺りでは同日午後六時豊明殿において賜餐の御沙汰ある由[illegible]

朝鮮神宮の元始祭

朝鮮神宮では一月三日午前十時から元始祭式により元始祭を執行したが、当日は早朝先づ社殿の装飾をととのへ、定刻宮司以下所定の座に着くや高松宮司は神前に進み御扉を開き御饌を供し次いで奏楽裡に祝詞を奏し、総督府各局長以下の拝礼あり再び奏楽裡に御饌を撤し宮司は御扉を閉し一同退出、終りて直会に移し一同退出し、[illegible]は総督府参列者は左の通りであつた

一、朝鮮総督(代理)山本遞信局長
二、朝鮮貴族総代子爵李完鎔
三、文官総代三山中央試験場長
四、武官総代川野中師團軍醫部長
五、各道民総代佐々木京畿道地方課長
六、京城府々民総代馬野府尹

總督、總監から御機嫌奉伺

山梨総督および池上政務総監は職により一月元旦の新年に際し宮内大臣、皇后宮大夫、皇太后宮大夫あて、新年に際し[illegible]陛下御機嫌奉伺の電報を[illegible]した

新春相場を裏切つて初立會は暴落

日先は愈々悲觀か

京取市場にては午前九時半分より新春の初立会を行つたが立会に臨む者も例年の如く平岡専務の挨拶、新田委員長の答辞と例の如く終つて一同乾杯の後態々立会を開始したが昨年来よりの財界不況日支交渉停頓、金解禁問題等に禍され諸株一斉に暴落を演じたので一般に悲観説もとなり京取は二十二圓七十銭と昨年の納め相場に比し十銭安に寄付き、アト内地の新落により益々気乗り薄く結局二十二圓六十銭に止めた、商内地諸株は東新を筆頭に暴落を演じ久しく期待された新春相場も案外の姿を呈した。かくて昨年の納め相場に比し京取二十銭安鐘新一圓五十銭安大新四十銭安東新一圓三十銭安であつた

年初の暴落で商内稍賑ふ

年末以来金融緩慢に支持されて諸株は押落を免れてゐたが、金解禁問題、日支交渉等の[illegible]ば益々深刻の度を増して来た。かくの如くなので新春の初立会も崩落の止むなき状態となつたので目先不良を見越しての新規売や乗換売々買物も出で商内は稍賑つた、このうち五百枚以上の手口を示せば左の如し

初市手口

大新　買方白米五〇・売方白井五〇　七〇
東新　買方白栄二七〇〇松山一四〇〇渋谷一〇〇正岡一〇〇〇京記九〇〇白井五〇〇田中友五〇〇▲売方田中〇近一九〇〇松山一四〇〇白栄一二〇〇白井一〇〇〇新田八〇〇金盛五〇〇

吉例の初相場 年頭は呆ける

依然古米安崇る

木山は夫例の初相場と市場は紋服姿の廃客で立錐の余地なき盛況を呈し午前九時の鐘が鳴り響くや相手に迎へられて秋山専務が正面に役員社長に代つて年頭の挨拶を行ひ遂に[illegible]野委員長和合員を代表して答辞を述べ終れば総員の[illegible]の優勝を占めた諸員五名並に勤続店員の表彰授賞式を行ひ遂に自出度く初会式を終るや新春の第一節に入り素れ阪地の年頭呆けと申候つて寄限二十三圓十五銭中物二十三圓八十五銭と相関の納め相場より五十一銭の下放れに寄付き從つて新市の三月限も一般の予想より三四限も四十一銭安の二十六圓五十六銭と中限より二圓七十一銭の上鞘に発会致しアトは奥地の模りなき商状を受けて具申説係商内に手堅く保合ひ引際は七十十銭と引締つて散会した

◇總督新年宴會 山梨総督は五日午後六時から在京勅任官以上、官房各参官、民間有力者ら各國領事、朝鮮貴族を、各六日午後七時から各道知事を官邸に招待[illegible]

五日は休刊

新年宴會につき

初閣議

【東京電報】政府は四日初閣議を[illegible]開きとなるのである

居蘇の香過ぎて政治的活動始まる

各派大會は二十日頃

【東京電報】屠蘇の酔ひも三日を過ぎてはポツポツ醒めはじめ政界においても四日は政治[illegible]はじめて昭和四年の初議会が開かせられるので[illegible]時に政治的活動がはじまつて来る、即ち一月二十日までには各派がそれぞれその党務を[illegible]へ休会明けの[illegible]に臨む[illegible]あるが無所属にはおいてはすでにそれぞれ議会臨戦態度を明白に闡明して現内閣に鋭く迫りつつあるが民政党においても政民両党および新党倶楽部も言論自由を標榜するため党大会を開き陣容を新たにするは予ねてある[illegible]つまる[illegible]

政友代議士穴水要七氏逝く

【東京電報】政友會代議士富士川郡選出の穴水要七氏は久しく持病の糖尿病で療養中のところ病状悪化し四日朝遂に永眠した

民政黨代議士石川弘氏逝く

【大阪電報】大阪府選出民政黨代議士石川弘氏は近来糖尿に[illegible]悩み治療中[illegible]院に押して発しなる[illegible]病勢あらたまり五日大阪なる氏の自宅で逝去した

懐しの朝鮮

名士の年頭所感

祖先を同うする兄弟

勤勞と致富を望む

貴族院議員　永田秀次郎

今上陛下が践祚あらせられてより早くも三年の平和な春を迎へる事の出来るのはわれ等國民にとりて誠に限りなき喜びである。曩古の唐太鏡も遠くない事として、聖上陛下の御稜威はいよいよ光被を加へ、鍛は上にも奨、然々親きを増すことは[illegible]が赤子としてたとふるに物なき有がたき極みと感泣する次第である。私はこの機会に一年の新たなるに当つて朝鮮の同胞の人々にメッセージを通して私の小やかなメッセージを捧ぐる事の出来るのを喜ばしく思ふ。

私はしばしば朝鮮の土を踏み、朝鮮の空気を吸うて来た。しかしまだまだ形の上における朝鮮、眼で見る朝鮮の姿をはつきり知つてゐるとはいへない。だが昔から私の心——心で眺めた[illegible]といふものは[illegible]理解し、相当知つてゐるつもりである。私はもう[illegible]朝鮮の奨勵の[illegible]に従事して居る[illegible]以上、非常に[illegible]

来た、率直にいふと朝鮮出身の[illegible]生活は非常に良い兆候で内地の[illegible]生活に見るが如き進歩した状態にまでは[illegible]を少しも認める事が出来ない。皆様健康で[illegible]稍[illegible]と相違してゐると言ひにくいけれど[illegible]を感じる事が出来る。

◇

朝鮮の人々はよく「民族」といふ言葉を口にされ、高調されるやうであるが、私はこの問題について余り小さい島國根性的な理論にとらはれたくないのである。われわれの先祖を歴史的に調べて見ると神人と三人と帰化人の三種族によつて日本國は成り立つてゐるのであるが、神人とは日本の建國の基礎を建てた神代の人々で、土人とは熊襲やその他の土人で、帰化人とは朝鮮や支那の人々や支那より帰化した人々を指すのである。日本古代よりこの三種族によつて形つくられてゐる。現在においてもこの帰化人の系統に属する人が内地に六千萬人の内三千萬人ある譯となり、内地人六人中に二人は朝鮮の人々なのである。

◇

こゝに至つてわれわれは朝鮮と内地とは民族的にいかにしても離るべからざる地位に置かれてあるといはねばならないのである。

私はかゝる見地よりして内地人と朝鮮人といふ區別をつける人々を軽蔑する。われわれは等しく祖先を同じくする民族であるから共に一致協力して日本國のよき建設に努めねばならないわけである。これはわれわれ民族の將来の力強い一致の上[illegible]、他民族と[illegible]

◇

朝鮮における自治についても私は可成り面白い考へをもつてゐるが、まづ朝鮮の人々へ贈る言葉は「内地人以上に働きそして富んで下さい」といふのであると共に「われわれは祖先を同じくする兄弟の朝鮮」であるといふ言葉である。

妖鬼流血録 (123)

長谷川伸 作
木村哲二 画

年の瀬の渦 (3)

志津摩に捨てられた里の屋の小里、志津摩と鍋五郎の去つた後、暫くは顔も卯げ得ず、泣きに泣いたが、やがて涙をふり拂つて、キッとなつて顔を挙げた時、彼女はいたいけな浅ましさはすでにはつきりとついてゐた。

あくまで憎に生きる、鍋の瞬間者となる、といふそれであつた。柳橋で鍋込んだ里の屋の看板を捨てて来ても既に幾十日の時が経つてゐる、容易な柳橋に戻つて来られるものではない。

それなら、どうして生きる。俺くまで兵庫志津摩の邪魔をキャッチすることを目的として、生き甲斐のある生活をしてみせる。兵庫志津摩は、この小里と恋させの思ひ込んだるが故に、お稚はどう[illegible]の、小里と恋しての[illegible]女賊と謳じたるが故に、あれ程恋して来たのではないか。それがおせんではない、女賊ではないと知ると、あのやうな無情な[illegible]

へ落ち込んで来たところで、ポンと振捨て、今日の腹いせをしてやりますわ……」

「あは、は、は……、そいつあ、子供つぽいやりかただ、それよりお前、柳橋で鍋込んだ姐さんだ、聡いこた云はねえ、元の古巣へ帰んなせえ……」

「嫌です……、それが出来るくらゐなら親分さんとこへご相談に来やアしません。わちきはこれから泥棒の仲間をして、一人前の盗賊になります……」

小里は駄々児のやうに、一寸頑に云ひ張る。鍋五郎は呆れて小里の顔を打ち眺め、と見入るのみだ。

色白くきめこまやかに、眼涼しく、ものを言ふ、女盛りのこの小里の、情熱の火に燃えた、復讐の炎に燃えかへる胸のうちが、胸もなく白魚のやうな指の先までが美しい光りの眼にあらはれて、物凄く心を語るやうに、小ぶるひにふるえてゐる。

情熱まる捨身宣した志津摩、水掃ぎのおせんは上の大女賊、大盗賊となつて、志津摩の魂を盗かし、然る上に、パッと振捨て見せる、それが女の意地、柳橋藝者小里のせめての心意気だ……。小里さう固く決めた。

深川の料亭を出ると、小里はその足で、諸藝妙の鍋五郎を訪ねた。

「親分さん、わちきに儲しうござんす。兵庫さんは、わちきを水掃きのおせんと思つたばかりで惚れにしてゐたものの、さうでないと判るとボンと捨てしまつたンです……」小里はんたりに口惜さうだ。

「まアさう大きな聲をしなさンな……」

鍋五郎からたしなめた。たいして慟くもないこの家に、偽物の水掃きのおせんが隠まつてあるのだ、おせん、おせんと大聲を出して、隣家のおせんに聞かれたらこいつ悶着だ。

「それで、お前どうしようといふのだ……」

「わちき、水掃きのおせんよりもつと偉い盗賊になつて、兵庫さんの心を蕩かして、すつかり惚れ込ませてやらうと決心した。」

「仕方がねえ」お前の思ふやうにするさ。だが、悪いことをすりやア御仕置になるのは判つてるンだから、その邊はよく考へてみなよ……

何も泥棒にならなくつたつて、長兵衛さんとやらと元の仲になれねえと思つたわけでもあるめえから、な……」

鍋五郎、獅子のやうに、かういつて聞かせるより仕方がなかつた。

小里は、なほしばらく鍋五郎と睨み合してゐた。固い決心をしたやうなものゝ、そこは女、今宵から住むべき家もなく、頼りにすべき人もないと思へば、この場合、鍋五郎一人が頼りなのだつた。

水掃きのおせんが、小里を隣の一間に見た。そして小里の話を、寝ながらも聞いた。おせん既に小里の姿を見知つてゐる。自分の名を騙つて志津摩の愛を得てゐる女、憎くもある。だが、盗賊といふ稼業を捨て、既に身を固め込んでまで志津摩の愛を得ようとするその気もちには同情が出来る。

しかし、同情と妬みとは別問題だ。

おせん、小里を恋ふへ悪して、飽までも志津摩の愛を獲つてやらうと決心した。

あすの天氣(5)

豫報	晴一時曇
氣	四日正午
温	最高 [illegible]
	最低 [illegible]

高氣壓は支那北部から朝鮮に向つてゐるが全鮮一般に亙つて所により小雪がある明日は天氣が良くなる

……人……

◇小城文八氏（京城局監督課長）出張中の處三日、後十時五十二分京城驛着列車にて歸城
◇牧山耕藏氏（朝新社長代議士）四日午前十時入城▲田高朝雄氏（帝大教授）三日入城前醫へ
▲大内辰雄氏（三井物產社員）同上

謹賀新年

京城生命保險同業會（いろは順）

日本生命保險株式會社朝鮮支店　支店長　大庭讓太郎
日清生命保險株式會社滿鮮支社　支社長　高澤源三郎
月華生命保險株式會社滿鮮支部　支部長　水沼千鶴
蓬萊生命保險相互會社朝鮮支部　支部長　藤野稚吉
東洋生命保險株式會社京城支店　支店長　小林百代
東海生命保險相互會社朝鮮支部　支部長　村松又助
常磐生命保險株式會社滿鮮支部　支部長　高橋清五郎
朝鮮生命保險株式會社　取締役支配人　小野敏雄
片倉生命保險株式會社朝鮮支社　支社長　小川新
横濱生命保險株式會社朝鮮支店　支店長　海老塚小次郎
第一徵兵保險株式會社京城支店　支店長　米澤芳彦
大同生命保險株式會社京城支部　支部長　山室辰之助
第一生命保險相互會社朝鮮支部　支部長　渡邊退助
太平生命保險株式會社京城支部　支部長　朝野秀一
大正生命保險株式會社京城支部　支部長　都島隆七
八千代生命保險株式會社朝鮮支社　支社長　齋藤利光
福德生命保險株式會社京城支部　支部長　米澤豊成
帝國生命保險株式會社京城支店　支店長　原田頴太郎
愛國生命保險株式會社朝鮮支部　支部長　大輪林三郎
共濟生命保險株式會社京城出張所　所長　平野眞
共保生命保險株式會社京城出張所　所長　桃井福太郎
有隣生命保險株式會社朝鮮支部　支部長　本田久
明治生命保險株式會社京城支店　支店長　押原參吉

大吹雪、大海嘯 裏日本の大荒れ
死傷者百名を突破し その被害惨を極む

【東京電話】一日夜來の暴風雨雪は二日未明におよんで益々猛威を加へ、日本海は直江津沿岸から北陸一帶にわたつて午前七時頃から突如大海嘯襲來し新潟縣中頸城郡名立村から西頸城郡市振村にわたり、北陸線沿岸線路は海水に洗はれて數十ヶ所決壞し市振驛構内は全く埋沒して列車の運轉杜絶となつた中西頸城郡二十數ヶ町村にわたる被害は海嘯に浚はれた戸數七十余戸、破壞戸數百六十戸死者五十六名負傷者數十名の多きに達したが、電信電話線全く切斷されて詳報を得ない

饑えと寒さの旅客、千五百 山形縣下だけで 十列車が立往生

【山形電話】一日夜來の大吹雪は二日は一層猛烈となり山形縣以北は除雪車のラッセル車が九臺立往生のやむなきに至り山形縣下に立往生の列車は二十數ヶ所で十列車に達し立往生旅客總數は二千五百名その中には立往生してゐる附近に饑餓の聲を聞き、ス于一人は續つて停車した旅客は何れも寒さに慄へてゐる、山形縣廳からは各驛に命じて救出しを行つてゐる

湯濱瀧泉方面も浸水

【鶴岡電話】日本海沿岸は二日午前二時頃から大風雨に襲はれ山形縣湯の濱温泉方面では、海嘯百九十間余波にさらはれ、民宅は多數浸水して流出家屋十數を出した

佐渡の被害

【新潟電話】佐渡の外海府村、大字鷲崎の住家は一棟倒壞し、二名の死傷者を出した外、納屋倒壞四棟浸水家屋十戸を出し漁船防波堤全部倒壞され相川町では住家一棟納屋一棟流失一棟倒壞しその他の漁船等被害も多し

日本海の風浪に嘉義丸惱む 備品もさらわれ 危く危險を脫す

【敦賀電話】敦賀浦鹽航路嘉義丸は元旦敦賀を去る三百四十マイルの日本海上で浦鹽に向け航行中、彼の大暴風雨雪に會ひ數十丈の激浪は遂にストーブパイプを折り上甲板のドアーを破壞し船室に浸入、危險に瀕したので大難航をつづけ二日夜敦賀に引返して修理中であるが全く十數年來の大風雪でサロンの時計なども激浪にさらはれてしまつた、同船は修理を終へて五日浦鹽に向ふ豫定である

北鮮航路不能となる

【敦賀電話】敦賀地方は一日來霙まじりの強風吹き荒み二日に至り益々強く數年來なき嵐にて三十一日敦賀を出帆し浦鹽に向け航行中の嘉義丸は大吹雪に遭遇し航海不能となつたので二日午後二時敦賀を出帆し北鮮に向ふべき北日本汽船の以知丸をはじめ各航路の汽船は出帆を延期したため敦賀港は船舶輻輳の有樣となり大吹雪の爲相當の損害となり二日朝來敦賀新舞鶴間敦賀中越鶴間ともラツセル車を運轉し人夫七百余名を出し除雪せしめてゐる

北海道は電線不通 開通の見込み立たず

【函館電報】北海道各地は一日來風雪激しく加ふるに倒壞[illegible]のため電信電話は切斷してボロ〳〵に斷絕し、電柱の倒壞せるもの及び電信電話線および鐵道線路のおびたゞしく鐵道電話は一時不通となつたが鐵道電話は三日朝漸く開通した普通電話は全然不通である函館旭川方面の通話は不能である、小樽、札幌下の復舊工事中であるが被害範囲はひろい

列車の屋根吹飛さる 東海道線の突風

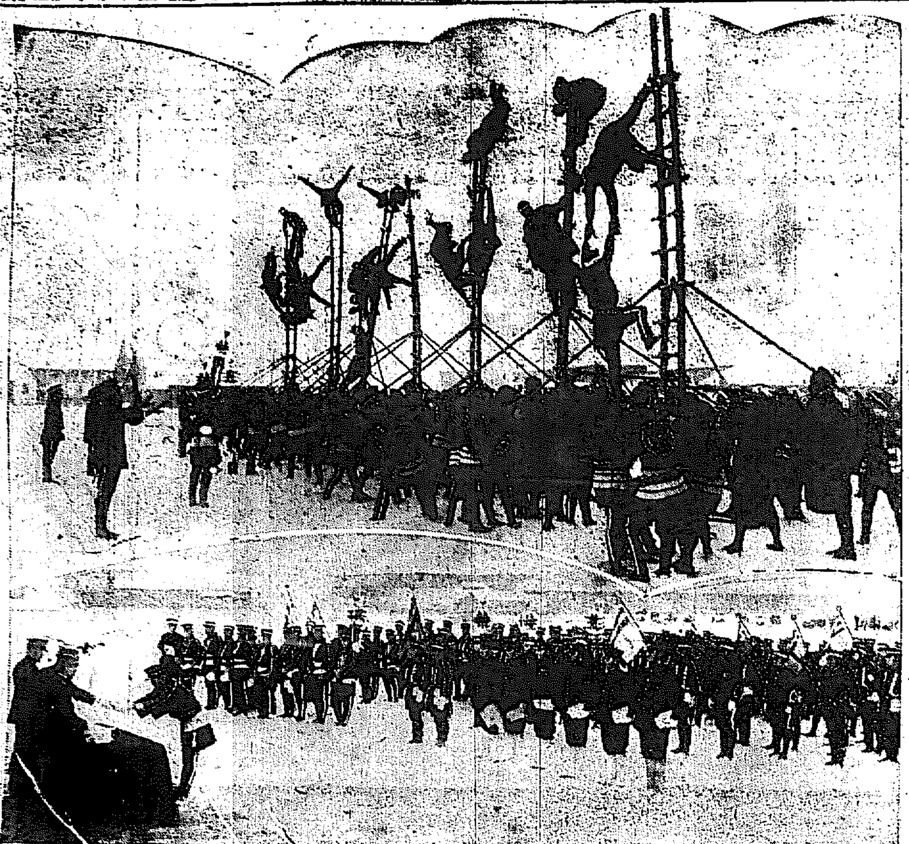
【靜岡電話】一日夜十一時頃下り神戸行き十一列車が沼津原間進行中風速二十メートルの突風の爲列車の屋根は吹き飛ばされた

列車の顚覆 死傷者十數名 大湯線の惨狀

【大分電話】四日午前七時四分大湯線豐後中村より列車が由布院間第二隧道附近を進行中、前部二輛目客車より三輛脫線顛覆し水の中に折れ重なり乘客十數名の死傷者を出し大惨狀を極めた、負傷者は別府病院に擔ぎこみ手當て中であるが詳細取調べ中

母子四名燒死す 三島町の元日火事

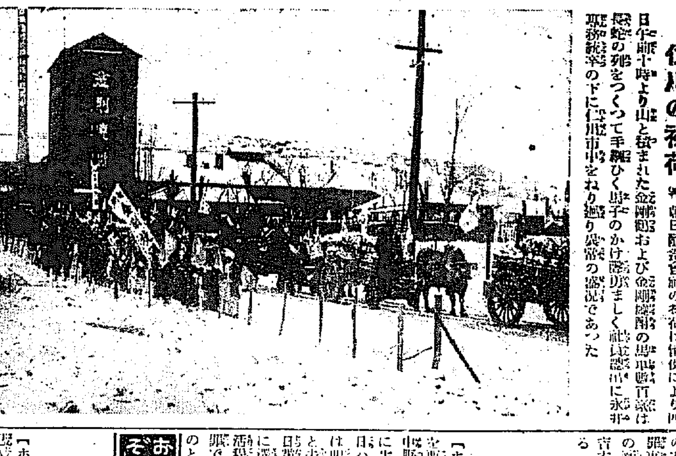
【三島電報】靜岡縣田方郡三島町小中島方より一日夜八時半出火し、火は北西の烈風に煽られて、忽ち隣家に延焼し四戸三棟を全焼して九時半鎭火したが火元小島方は家内一同猛火につゝまれ、妻よし(三五)長女とみ(七)長男英雄(五)二女かつ子(二)の四名は無慘なる燒死を遂げ主人小島は全身に大火傷を負ひ、直に病院に入院せしめたが生命危篤である、なほかけ付けた消防手數名も負傷したが原因目下取調べ中



消防出初式 (上)梯子乘り(下)表彰式

仁川の初荷

(寫眞は朝日醸造合資の初荷)朝日醸造合資會社の初荷は恒例により四日午前十時より山と積まれた金剛印および金剛醸酢の馬車數百臺は長蛇の列をつくつて手綱ひく馬子のかけ聲勇ましく社員總出にて永井取締役の采配の下に仁川市中をねり廻り賑盛の盛況であつた



高女校長の自殺

【山形電報】山形縣村山郡高等女學校長高橋源次郎氏(四〇)は二日夜自殺したが、原因は私行問題を摘發されたのを悲觀してである

鐘路で脫線

三日午前十一時頃光熙門行第六十五號電車が鐘路交叉路上において脫線し一時電車運轉は不能となり鈴成りに乘んだ電車に三日の忙しい正月の人々は大騷ぎしたが乘客に被害はなかつた

布哇の邦人が又も富豪を脅迫
受取りに行つた所を捕はる 第二の福永寬事件

【ホノルル一日發】ハワイ在住の富豪チヤーレス、エツチ、ウイルコック夫人に對し二月二十日づけで脅迫狀を送り、金一千ドルを要求し更に二十八日づけで金三千ドルを要求した者あり、夫人はこれを相手にしなかつたが第二の福永寬事件たるの懼を感じ

犯人は 日本人吉本慶一(二一)(廣島縣生れ)と判明した彼は當地ダイアモンド眺台に屬してゐたものである。吉本は最初の手紙には千ドルを五十ドル紙幣のみで紙につゝみホテルストリートの支那料理店ホノルルチヤプスイの縁側に預けておけと命じたそして早田常治といふ日本人自動車運轉手を雇ひその包をとりにやつたが早田が首尾を怪しみチヤプスイのコックに支那料理の包を與へたといふた、コツクは料理の出まへに來たのまれてきたと答へた、早田はテッキリ自動車運轉の爲逃げの手段と思つて吉本が待つてゐるフイツシュマーケットに屆けずそのまゝ車のたて場にかへつた吉本は

最初の 手紙がウイルコツク夫人につかなかつたものと誤解し、更に第二の脅迫狀をだして更に三千ドルを出せと吹きかけ同じくチヤプスイの縁側に渡しておけと命じ今度は人手をかりず三十一日夕方チヤプスイに行き受取らんとする所を待ち構へてウイルコックス夫人が雇ひ入れた私立探偵と警察の探偵のため直に逮捕された

連累者もある 正月早々の犯罪で 日本人悄氣返る

【ホノルル一日發】吉本の逮捕と聞けるといふ婦人はウイルコック夫人の女中をやつており、彼はそれからヒントを得て同夫人に脅迫狀を送つたものである、近來ホノルルに脅迫脅喝の犯行が續發せるは當地新聞ハワイ報知が福永寬の助命、再審運動を開始し殺人しても命は助かるといふ樣なことを宣傳した結果であると一般の犯行につき一般の輿論は吉本をなるべく嚴罰せよといふ

いなせ姿で晴れの出初式
けふ訓練院に 水龍おどる盛觀

京城府消防出初式は四日午前九時から訓練院において盛大に擧行された、同時は早朝から觀衆をもつて埋まつた觀衆で廣場を埋め、午前八時四十分までには訓練院中央は京城府消防組、龍山、麻浦、各組の消防手三百有余名および自働車ポンプ水管車ポンプ各一臺、第一、第二、第三、第四の四ヶ小隊に分ち横隊に整列し、定刻の午前九時になるや勇壯たるラッパの音は冬空の澄みをついて響く、二瓶消防組長の指揮で儀式を開始し、儀式官田中警察部長および米田知事、馬野府尹が臨場して儀式を終りいよ〳〵消防手の待ちに待つた晴れの梯子乘りに移り京城、龍山消防組から各一組づゝ六組の消防手が中空に妙技を見せて出初の次に入つた。あらかじめしつらへられた空中の大赤ボールには四本のホースから迸り出づる水煙が、虹をはいて水龍の天に翔つてのぼる如く觀衆を驚かし、同觀の大喝采を博し盛況を呈し、午前十時晴れの出初式を終つた、出初式が終ると各消防手は同所に整列して二十年、十五年、十年の各勤續者の表彰式、訓示目錄授與などがあつて午前十時二十分盛會裡に散會した、表彰者は左記の通りである
▲勤續二十年勤務表彰者(銀杯金數萬元)宋元在、金相濬、金翰石、朱仲元、趙千長、李春石、李龍石、中仁五、金昌明、李今龍
▲勤續十五年勤續者木杯金一封…
▲勤續十年…木村勝久、市村得、高畑才太郎、矢野孫吉、吉田庄介、下垣藤吉、藤佐作文、森岡勇、李大興

心臟痲痺で死亡

二十八日釗路の倉庫が倒壞した浮浪者の一人仁川府花町二〇番地住所不定朴科三犯徐斗成(四〇)は四日午前四時頃同所留置場より突然鼻から血が出て痛いと訴へたので留置場内ではすぐに高橋警察醫を呼んだが同人は醫師の來る前に便所に行きたいと訴へ、小用をたつしてゐる中心臟痲痺で卒倒してそのまゝ死亡してしまつた

便利なプレイガイド

本町ビルデイングの一角にキネマ劇場、寄席其他一般各催物の入場券を割引販賣する京城プレイガイドを松田商雜氏が發元日より開店したが割引した上に一枚でも配達すると云ふので開店早々から非常な盛況を示して居る、因に電話は本局三七七四番である

天地眼師再び入城

昨多久败留して一般希望者の依頼に應じ高評を博し、暫らく內地出張中であつた御霊晋性相學會長東馬大山眼師は再び入城、浦尾旅館に投宿したが、各方面諸有志の懇請に依り五日より來る十四日まで毎日午前九時より午後七時まで一般の依頼に應じ同師獨特の靈見を傾到する筈

吉本は中流の生活 犯人の生立ち

【ホノルル一日發】吉本慶一は父吉本要之助といひ廣島縣安藝郡中野村に明治元年十一月二十五日に生れ、明治二十一年六月二十一日ハワイに渡航し來たり、妻りかは明治元年一月五日生れで要之助と夫婦になつて明治三十年九月一日當地で長男慶一を設うけた、妹に潔代、雪子、愛子の三名あり生活程度は中流なので貧困からの犯罪ではなく離れ水準作定樣做したものと見られる

吉本は脅迫事件發覺した脅迫状在留日本人の訴状を行つた一元旦早々日本人の大犯罪のである、元旦早々日本人の大犯罪事件突發した爲當地在留日本人の氣分や沈みがちである又吉本には連累者もある見込みである

裁判は四日に開廷

【ホノルル二日發】脅迫取財未遂犯人吉本慶一の裁判は一月四日グランド、ジュリーに附されるはずであるが、結局二等脅迫罪として懲役二ケ月に處される見込みである、犯人は妻と子供三名がある

總督夫人は五日朝出發

過般來感冒で療養中の山梨總督夫人は五日午前十時十分京城驛發の列車で令息同伴歸京するることになつたが出發は夫人の部屋で見送りすることになつてゐる

お通りがかりにはぜひどうぞ…本町四丁目 喫茶店 金剛山

ぜんそく セキ
今にも息がきれる!、苦しい〳〵頑固な ぜんそく セキ
何をやつてもキカヌ困難の人よ
驚くべき新創見の化學藥
『スペロイン』を
早くトンプクして病苦を救はれよ

注射以上のトンプク藥

注射以上のトンプク藥「スペロイン」の作用
▽ゼンソクの毒素が巧に小便にとる新創見の化學藥です。
▽ドンナに苦しいゼンソクの發作も「スペロイン」でラク〳〵止る。
▽ガンコなセキがとまりタンが切れノドが輕くなり呼吸が樂になる。
▽心臟が樂になり安眠出來る。
▽引き續き服用すると喘息の發作が少くなり遂に「ゼンソク」が起らぬ樣になつて丈夫になる。
▽モルヒネやアドリナリンなどの毒劇藥の類でないからいくらのんでも心配無用。
▽予供の百日咳に偉大なキキメがある。
「スペロイン」の實驗者はキキメの偉大なのに驚き泣て喜んでゐられます。ドンナ、ゼンソクにも効力實に的確です。何なのんでもキカズ、ゼンソクは死ぬまで治らぬと悲觀してゐた人や注射で我を我が命をちゞめてゐる人に一大福音です。迷はず今すぐ實驗せられよ。委しき説明書は藥に添附
適應症「ゼンソク」氣管支カタル、氣管支擴張、利尿、百日咳、感冒、ガンコなセキ神經痛、偏頭痛等その他セキの諸症

實驗者の禮狀

東京銀座 谷〇〇三氏
拜啓迂生儀去七月以來喘息病初めて相發し種々なる良藥と云ふ良藥を相用ひ候も更に効力なく困り難の折柄貴社御發賣の「スペロイン」を買藥之日本社より買求め服用致候處息苦しき喘息の發作も咳も不思議の一回も仕らず安眠致候、其の效果の著しきには不思議の感に打たれ候、毎夜就寢前に一服服用致置候へば咳も發作も無之誠に新藥と存じ候、六日分二回相用候處現在では全快と同樣になり難有存じ候先は御禮まで……

宮崎縣高〇町 中〇平〇〇氏
拜啓私等喘息持ちには恐ろしい季節となりました昨年「スペロイン」を服用しましたが效果偉大の藥品で實に感謝致します、注射以上で直に間に合ひますから誠に申分のない藥で有りがたく御禮申上ます……

兵庫縣上〇久村 柳〇潮德〇氏
前略「スペロイン」十五日分買入れ服用致しましたが效果著しく村內の「ゼンソク」病者に分配服用させましたが皆々大變良く效くと申され悅で居る樣な次第です、今回は四十五日分三十五日分二個大至急に御送付下さい……

福岡市花〇町 熊〇〇香氏
前略御手數かけてすみませぬ、ほんとにお藥のよくきくのに驚きます、今まで苦しくなりますとは注射ばかりして居りましたが御陰樣ですこ「スペロイン」を服みますと忘れた樣になります、御面倒ながら「スペロイン」二十五日分御送り下さいませ……
コレはほんの一例ですその他ずいぶん多數に來てゐます。

藥價 「スペロイン」藥價六日分一圓、十五日分二圓四十錢、二十五日分三圓四十錢、五十日分五圓四十錢、百日分十圓(有名藥店に有り)一品切の時は直接に送料前金は無料、代金引替は三十錢增
スペロイン發賣元 大阪市天王寺區東平野町三(電話天王寺四〇一五番)振替大阪七五一四番 東亞藥園

注意 近頃類似藥が出來てゐますから必ず「スペロイン」と御指名を乞ふ(藥店に有り)
特約店 京城府黃金町 新井藥房 同 本町四丁目 木村藥房 同 鐘路 藤田藥房 同 府天町 大黑南海堂

能筆

東京本郷帝大正門前 電話小石川二〇一〇 帝國習字速成學會

面白い程字がうまくなる 習字速成法
乱雜な文字は人格の劣等を示し、字の拙い事は一生の恥、汚い字の惡評をうけて破談になる縁談、つまらぬ手紙の下手な字のために損をし
商い字の上手な人は得をする、大家の小童にも人に好かれ、貴い字は一生の寶、上手な字は世に重宝がられ尊ばれる……(以下不鮮明)

東京寫眞學校 東京品川驛前 本校は責任を以て寫眞技師を養成す 學則無料送呈

外務社員採用
相當學歷を有し販賣に經驗ある二十八歲以上の日鮮人紳士數名採用す來る十二日までに履歷書携帯至急來談ありたし
但し市內に保證人數名を要す
日本ゼネラルモータース株式會社 シボレー自動車特約販賣店
京城府太平通(電話本局二一八〇番) WWテイラー商會

恭賀新年
朝鮮平壤府大和町(電話籌安一八〇番) 注文品 雜貨品 鳳祥洋行
長電話三六番 木邊房吉商店

京日案內
女中 入用年齡十六歲より 朝鮮旅館 澤旅館
記者 募集但し專門學校卒業以上又は新聞記者の經驗に富む者
留守 五十歲以上にて綺麗好きな獨身の婦人で…
毛皮 なめし並に仕立…
株式 (入會證據金)…
ほね つぎ
恩給 …
恩給 …
恩給 …

二日午後類燒の節は早速御馳付御盡力被下難有奉存候混雜中尊名伺洩も可有之乍略儀以紙上御厚禮申上候 昭和四年一月 京城府漢江通十一番地 高橋嘉一 移轉先 漢江通十一番地三十六號
新裝開店 京城府漢江通十一番地 若杉市三郞 移轉先 漢江通八番地
二日午後出火の際は早速御馳付御盡力被下難有奉存候混雜中尊名伺洩も可有之乍略儀以紙上御厚禮申上候 昭和四年一月 京城府漢江通十三番地 建具指物製作所 箕輪壽太郎 移轉先 漢江通十二番地

荊妻ヒロ子儀病氣中の處療養不相叶本日午前四時四十二分死亡致候間御通知に代へ謹告仕候 追而告別式は明六日午后三時當地鬼籍寺に於て相營み可申候
昭和四年一月四日 咸興東陽里官舍 中野勝次

歌舞伎の世界進出【下】

劇壇の諸問題

濱村米藏

外人の歌舞伎觀

左團次のロシアにおける公演がどんな效果をもたらしたかは、未だ詳にはまだわからない。もつと詳細に時日の經過を待つてゐるべきであらうが、歌舞伎の技藝だけは相當に知ることが出來る。大體においては歌舞伎の技巧の種類の謎なのには誰もが驚いてゐるやうである。モスコーでは第一回報告に『忠臣藏』の一部と『鳴神成夢』が上演された。こうして初日が出ると、モスコーの二大新聞が揃つてその劇評を掲載した。『イズウエスチヤ』紙にはデイ、アルキン氏、『プラーウダ』紙にはゲイ、ガウツネル氏が執筆した。兩氏とも無論相當な專門家で、いづれも日本へ來遊したことのある人々と聞いてゐる。

アルキン氏はまづ左團次の一行が『歌舞伎の造形的方面においても文學的方面においても、優秀な技術を示した』といひ、次いで『ロシアの觀客には、臣藏が一部分らないし、歌舞伎の慣式なども知らないにも拘らず、或る場面では驚嘆すべき印象を與へられた』といつて、由良之助切腹の際の左團次の技巧を賞讚してゐる。ガウツネル氏は別に城明渡しの左團次の藝術的手腕に感心してゐる。要するに藝術的な文學で讚美されてゐるものゝやうである。それをこゝへ一々列擧したところではじまらないからやめる。

アルキャン氏はかつて『改造』紙上において日本演劇を寄せて、大きな如くに述べてゐる。

『最も新しい歌舞伎劇の技術は、その舞踊演劇が他のすべての演劇の形式とは全然無關係な、獨自の演劇要素として、完全に獨立してゐることである。現代ヨーロッパの演劇はこの獨立をとうの昔に失つてをり、とうの昔に文學の從屬物乃至藝術の他の分派——繪畫、音樂、文學などの合の子に變つてゐる。現代ヨーロッパ劇の大部分は——藝術の獨立した分野でなくして、單に他の藝術に對して一種の補助的權能に過ぎない。本來舞臺藝術なるものは、他の藝術と關係なく存立することが出來、又文學、繪畫、音樂の助力なくして、それ自身の固有の力によつて培はれる藝術的エネルギーの巨大なる表現を內藏してゐる藝術であること、歌舞伎劇はその偉大なる技巧によつて示してゐる。この點には現代において歌舞伎劇は何よりもまづ世界的意義を有してゐる。即ち西歐諸國の舞踊藝術がいちじるしく衰微してゐる現代において、ひとり日本劇のみは舞臺藝術が永く生命を保つべく、かつほかの藝術の光りをからずして、自己本來の火力によつて燃えうることを示してゐる。』

かういふ程度の言葉は、それ以上十分な意味においてゞはないが、アルキャン氏ばかりでなく、ほかのヨーロッパの卓越した演劇批評家からも聞かれるものである。

歌舞伎と世界劇壇

更に歌舞伎のいちじるしい特徴の一つとして、アルキャン氏の擧げてゐるものは、『多數の個人的藝術家の意志を組織的に綜合せしめて、唯一の藝術的意志を實現する俳優團の偉大なる綜合』があるといふことである。その結果として日本が珍しく高級度の天才俳優を生んだことを取り上げて、氏は續けてかういつてゐる。『未だかつて日本のやうに舞臺藝術の偉大なる名人がこれ程輩出してゐる國を、たゞの一つも擧げることは自分には出來ないやうに思はれる』と。これは世界の演劇史に見ても、決して外人の好奇心からばかりのお世辭ではないと思ふ。」

私は餘程以前にこれを山本有三君にいつたことがある。すると同君は『さうでもあるまい』といつて、一寸では私の說を受け入れさうでないから、そのまゝにしてしまつたことがあるけれど、これは我田引水でなく、伊原青々園氏の日本演劇史が日本俳優史であることに見ても分る。他の例でいへば團十郎の代々のやうに、父子相傳で傑れた名優が家の藝を繼承してゐるやうな場合も、世界に類がないことだ。又小山內薫氏がこのアルキャン氏の歌舞伎劇を批評した文章の中で、氏がロンドンでイギリス近代の名優ビアボム、ツリイを見た時、聊差にその技藝が中村歌六に劣ると、十數等なることを感じたといふやうな話でも、凡そ想像はつく譯である。」

六百年からの傳統を持ち、他のもろ〳〵の藝術力を綜合して、獨立した發達を思ふ存分に遂げた歌舞伎としては、それは當然過ぎるくらゐ當然といはなければならない。さういふ大きなスケールをもつた歌舞伎が、昨年はかなり十分な意味で、はじめて世界の劇壇に向つてスタートを切つたのである。今後どういふ結果を擧げ出すか、それは世界劇壇の爲ばかりでなくわれ〳〵に取つても重大な意味がある。といふのは初めて日本を强く認めて、世界の演劇全體が行詰つてゐる。われ〳〵はこのスランプから世界の民衆を引きあげるやうな新らしい演劇をつくり出さなければならないからである。」——

昨年十月二十七日早稻田大學の校庭で擧げられた演劇博物館の開館式に、坪內博士は講演を述べて『おもふに、古來往來、現代ほど世界中の國々が一齊に新らしい演劇の爲に、暫くも休止せず、安立し得ないで、熱心に運動を續けてゐた例はなかつたであります。これは明かに世界中の演劇が一般に行詰つてゐるほかを示すので、ほし詰まつて、このまゝでは、どこの國もまだ十分しませんが、して其の演劇の今日の狀況であります。滿足するに足るやうな新舞臺藝術を手に入れてゐないからでありませう。すなはち、どこの國も、どうしたら現代に相應した新舞臺藝術が得られるかと、いはばめくら搜しにさがしてゐる狀態であります。』といふ意味を說いてゐる。さういふ現代にあつて、われ〳〵の歌舞伎は舞踊や舞臺美術の上において、多くの實驗をするに相違ないことは、何等の疑ひもない。

同時にわれ〳〵の歌舞伎は固有の思想の點で、ヨーロッパの演劇から出來るだけ營養素を吸收して、われ〳〵の新時代にふさはしい新しい舞臺藝術をきづき上げる努力と努力とを怠つてはならない（完）

萬歳　小川千甕畫伯筆

新講談　巳形金（下）

松林伯知

一夜明けると、正太郎が右の作物を鑑役人の後藤さんの處へ持つて行つて見て貰ふと、後藤さんが『これは世にもめづらしい品だ』と取る物も家元に見せると『この品こそ甲州武田家の城主勝頼の家に傳はつた蛇形の黃金といつて、元內證から傳はつたものにて、天下の逸品ともいふべき蛇形である』といふ鑑定がついたので終にこれが役人の手から將軍家へ獻上に入れると、八代の將軍吉宗、深く感心に召し、この蛇形の黃金を御買上げになつた、金千兩といふ金を發見者へ下げられました。のみならずこれが所有となり、越後屋が大奧へ御出入をして小間物一切を入れることになつたから、越後も元代も同じして總町年寄へ立派な店を開き、今まで聞いて居た町人の者も皆に敬つて繁々足を入れるといふのはこれ世の中の人情、一時は見すぼらしき姿をして居たお鹽も嬉しく化粧して奧にまつる辨才天を守護して居るといふ有様。所が或る日黑羽二重の衣類に仙臺平の袴を穿き五所紋の羽織を着し、其面も立派な大小を帶し、供の者を連れて深編笠の侍へ來た侍、主人に面會して少し內分の話があるといつて奧へ通る。正太郎が出て來意を尋ねると武『つかん事を伺ふが、お鹽と申すお嬢さんは御健康か』正『ヘイ健康でございますが、貴所樣は誰方樣で』武『イヤ恥を申さんでは分らんが、手前は十余年前、此方は安藝の藩士で、若氣の至り心ならずもその頃乞食に身をかへて辨才天に參籠し、御の利益を受けんとして、却つて主ならぬ浮ひをなした藝州藩彌六と申す者、お鹽どのと契りを籠めて、五日の間の樂き夢も本意なき別れを致したる際、家に傳はる重寶、蛇形の黃金を形の記念として御渡し申した故その黃金が近頃上樣の御手に入りしとうけたまはります』われ遊びこれに過ぎず、御役に立つてしあはせでござる、しかしお鹽どのはその後いかが致されたかと存じ、あつかましくもなつかしさの餘り今日お訪ね致したる次第でござる』正『エヽ』とビックリした正太郎、正『さてはあなたが彌六樣でございましたか』彌『イヤ誠に面目次第もない』正『叔父さん、叔母さん』『一寸來て下さい、お鹽〳〵早くお出で』三『何だえ、正太郎』とそれへ出て來た三左衞門夫婦三『オヽ、お前さんは先年のお乞食……』鹽『アレ、お前さん飛んでもない事をおつしやつて、どうぞあなた、お奧におかけなさらないやう』といつてる所へお鹽が鹽『何です兄さんと』それへ來て彌六を見て一時はアッと驚いたが、又嬉しさが込みあげて、夢の氣持ちにまつたる中要あつて、戀しと慕ふその人がたづね來たとは夢かとばかり喜び勇み、一子彌太郎の手を取つてそれへ進みより鹽『マア、彌六樣、いつも御無事でお目出たう存じます、私もこのやうな子まで出來まして』と、彌太郎をその膝下へ突きやる彌『オヽ、さてはお前はあの時に姙娠して斯樣な子を擧げたか』と膝へ引よせ顏を眺め餘りの嬉しさに淚さへうかめ彌『はづかしや御無沙汰の御主人、一夜二夜と思ふ內、五夜の契りに御貞節の娘を長く獨り居際、一人の子まで擧げさせ、捨置きしこの身の恥ども、うそ曲事に與りたい一旦乞食と身は窶せどもそれは全く心得ありて致せし事、今は故有り越後守に召抱られ、八百石の祿を食み、職名彌六正房と申す』これを聞くと正太郎が正『それでは君や貴方は職名正照殿に因由緒のある御方ではございませんか』彌『如何にも、お話申すも淚の種、今は八百石に甘んじて、安藝殿の臣下になりをれど、元を質せば大々名、先祖は豐臣家康殿の臣福島左衞門太夫正則、故あつてより殿下につかへ、未だ秀吉公健在にして正則は市松といひし頃、鳥取川にて南條元續、小鴨元晴の首をうち、初めて百石を賜はつてより、山崎の合戰、賤ヶ嶽の戰ひに戰功をあらはし、文祿の役には朝鮮に渡つて大功を立て、慶長五年下野小山の陣に正則は、德川家の爲めたる滿天院を嫁とし、關ヶ原の戰ひに又抜群の功を奏し、これが爲に戰後、安藝の二ヶ國を賜はり四十九萬八千石の大々名となりしが慶長八年正則の嫡子正之、德川家に背きし事あり、それが爲に閉門の後、首を刎られ、次男正利相續せしが、慶長十五年に至り正則父德川家にそむかんとし、元和五年遂に改易となつて越後國魚沼郡信州川中島の二ヶ所において六萬石の祿をあてがはれ、生涯を川中島に蟄し終つて寬永元年六月四日相果て申した、こゝにおいて福島家はその祿高を沒收され、一族その跡を絕ちしが、たゞ一人正利が玉江といふ妾に寵せし八郎丸といふ男子あり、これは庶子なるがゆゑにほかに預きしを後に玉江が八郎丸を連れ、讚岐安藝國へ歸り、そのまゝ八郎丸は成長し、その時を八郎太郎といひて安藝の安藝國にあり、その八郎次郎の子と生まれしが即ちこの彌六正房、父の八郎次郎が死に臨んで、我が祖先が一旦領せし安藝國、萬一德川に背くあらばその時に乘じてこの國をわが有に歸せよと遺言したれど、今は德川の天下泰平にしてそれも成らずなれども亡き父が最後に臨みて遺せし言葉は、耳朶を去らず、後に乞食に姿を窶し、德島に忍び隱して、ひたすら德川の滅亡を祈りしも、運惡さかんにして名君現れ、とてもわれ等が望むこと難しと、遂にその心やみ、江戶表へ來らんとする時、はからずも松平安藝守殿の江戶入府の途中、須磨の浦にて多くの惡漢者現れしを、某出で追ひちらし安藝守殿の御身につゝがなかりし功によつて召抱へられ、初めは國許へ送られ僅か二百石の小祿なりしが、その內福島正則の血統なりと相分り、昨年の沙汰にて八百石の高祿を賜はり、此度江戶へ召されし處、我が先祖より傳はれる蛇形の黃金、將軍家へ獻上げになりしと聞き、不思議のことに思ひ、段々探子を尋ねしに、當家より出でし事が分り、お鹽どのの菩提と感謝とによつて彼の記念に獻せし蛇形の黃金が役に立ちしを喜び、恥を忍びて今日罷り出でたる次第』と彌六正房が始終の物語りに、お鹽は勿論正太郎、三左衞門夫婦の者の喜びは幾千か』三『誠に目出度い、こんな目出度い事はございません。この上はどうぞお鹽をば改めてお迎へ下され度いものでございますが、如何にございませうや』彌『それは某よりも御願ひ申し、一旦契りし言葉もあれば、まだ今日まで妻も迎へず商家に生ひ立ちし娘が堅苦しき武士の妻となるは迷惑でもあらうがお鹽どのに是非參つて貰ひたい、正太郎殿も否やはあるまいが』正『何で否やがございませう、このやうな目出度いことはございません』とこゝに話が纏つて、先づ御目出度いといふので酒宴を開き、內祝言を致し、改めてお鹽、正太郎を福島殿の家に引取り、爾後の披露も濟ませ、いとも樂しき家庭を作りました。越後屋においてはその後又本石町へ戻り、居付地主となつていよ〳〵繁昌いたしました、本年の干支に因み巳形金と題する講談これにて讀み切りと致します（終り）

新年文藝

短歌

題『春』　尾上柴舟選

○ 馬山　山本　信加
死と生のなかをさまよふやるせなきこゝろともちて春を待つかな

○ 京城　山口みどり
よち〳〵と小さき歩みも定まれる吾子にひたすら春のまたるゝ

○ 大邱　井上たかし
夜べの雪白きをふみて鷄の高音あげたり初春の庭

○ 京城　國安　幾士
紅椿まつ赤に萌ゆる山の路子供と連れだち上りてゆくも

○ 富川　梅野きみ子
春は我が國に寐を手折り來て膝に上すも樂しみにして

○ 京城　奧村　愚堂
十八の春よと獨りごちつゝも我が愚髮をそとなづる母

○ 京城　三和みどり
初春の香とや云はむか居家客の袖よりもるゝ仄かなる香を

○ 京城　山中新太郎
聞衣汚れの目立つ寒くるがまづしき身には一つの惱み

○ 京城　高橋　珠江
燃えさかるストーブかこみ故郷の花たよりよむ北の國かな

○ 京城　てい　せき
白ゆゃイーうてばわきくる思ひ出指のつめたき春にしありけり

○ 釜山　矢谷　邱浦
ふく風の南になりて磯にむす若布みたり春と云ふらし

○ 京城　岡村　秀雄
春霞山べにうすく今朝引きて野川落椿流れてくれば二三四小魚がしばしつゐて泳ぐも

○ 京城　吉原　柳一
初日の川靄立て居ればさら〳〵と雪門松に降りかゝるなり

○ 京城　立花　狩龍
春風に登校の子等は足駄ら歌ひながらに今朝も出れり

○ 仁川　筒西　合水
山の宿門べ流るゝ水に映えてほつ〳〵梅の開き初めたる

○ 晋州　砥上　雪枝
鄙宿は雪となるらし晒の瞬をけたたましくもなきゆく鴉

○ 鳥致院　中島　波奈子
雪とけて黒くさやかに山肌のあらはれにけり萌のやきあと

○ 瑞川　村井　晃耕
羽子板をかき抱きたゝずみし幼日の春の今は戀しき

○ 開城　伊藤　規短
別れ來て心ざびしく春の日のかげるさまをばみいるなりけり

○ 京城　小松原　辰雄
なに〳〵の芽の芽だつや春風に面なでられてなごむ大地に
眼覺め窓に夜立ちをれば風少しなぎたる海に春の月いづ
一室の名なし小草の芥のかげ黒土に引きて春のどかなり

○ 南市　藤岡　陽水
迷なく春を迎へてなべてみなよろこびにみつ今朝のうれしさ

○ 密陽　高橋　正
山の溫泉に妻と二人の旅ねして思ふことなく迎へたる春

○ 清州　岡部　双葉
庭松の緑りの上にひろごれるひかりあかるき春の空かも

○ 神戸　七條　睦雄
買ひしもの馬の背につけ村人ら行きかふ街は春めきにけり

恭賀新年

釜山大倉町　小野組

釜山大倉町　合資會社　釜山貿易　電話一〇五〇番

釜山大倉町　朝鮮名產土產品　津村兄弟商店　電話三九四番
釜山驛前　津村支店

釜山大倉町　朝日商會　電話三八二番

釜山辨天町　夏川小間物店　釜山支店

釜山　長谷部豊三

釜山大倉町　谷本喜代一　電話八五四番

釜山　星野政太郎

東萊溫泉　御旅館　靜乃家

東萊　山田醫院

東萊郵便所長　野村清次郎

東萊面　職員一同

大評判！婦人倶樂部新年號

御覽になりましたか？

大變な人氣です

今年から大値下げ大改革！

明るい面白い役に立つ理想的婦人雜誌！

左の附錄が大評判です

堂々五百頁の書籍附錄

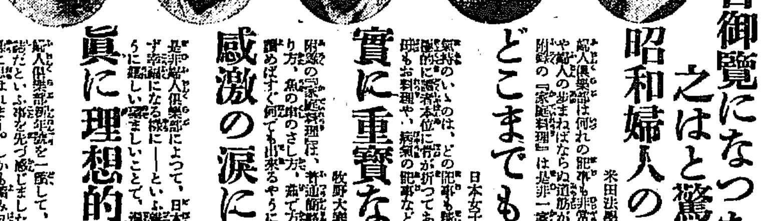
和食洋食支那食　家庭料理

一年三百六十五日、これ一冊あればお料理の不自由知らず誰方にもスグ出來る樣圖解入りで親切に說明してあります お惣菜、汁物、揚物、漬物まで、その種類凡そ五百種。これこそ一家必備の寶典。婦人必讀の名著であります。

書店で一目實物を御覽下さい

▼四百二十頁の大雜誌
▼五百頁の立派な書籍
「二冊で八十錢」

一目御覽になつたら之はと驚く大奮發！



昭和婦人の歩む道　米田法學博士夫人　米田和歌
婦人俱樂部は何れの記事も非常に分り易く、面白く、自ら人としての道や婦人の歩まねばならぬ道筋がはつきりと分つて來る樣に思ひます。附錄の『家庭料理』は是非一家一冊必ず備へておきたいものと思ひます。

どこまでも讀者本位　日本女子大學教授　正田淑子
雜誌のいゝのは、どの記事も精選されてゐて、ソツがなく、隅々までも徹底的に讀者本位に骨が折つてあつて、少しも宣傳的の色彩のないことです。お料理や、病氣の記事などは注意して讀んでゐるやうです。

實に重寶な名著です　牧野大學院長令嬢　牧野秀子
附錄の『家庭料理』は、普通簡略にされ勝ちの料理の基礎知識の說出しの取り方、魚の串のさし方、煮て方など全部取り入れられてあるので、これを讀めばすぐ何でも出來るやうになつてゐるので誠實に重寶と存じます。

感激の涙に打たれて　中河幹子
是非婦人俱樂部によつて、日本のあらゆる階級、すべての女性が一人殘らず幸福になる樣に——といふ雜誌編輯の念願は、私共女性にとつてほんとうに嬉しい望ましいことで、涙の出る樣に思はれます。

眞に理想的婦人雜誌　女醫　竹內茂代
婦人俱樂部新年號を一讀して、これならどこの家庭に入れても心配ない雜誌だといふ事を先づ感じました。本當に社會教育の模範を雜誌にして進む樣に思はれます。しかも讀み初めたら手離せぬ程に理想的な婦人雜誌です。

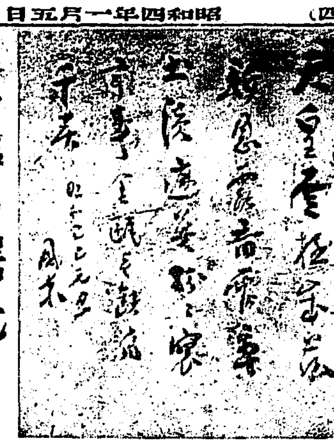
この外、各方面の名士、名流婦人擧つて激賞！愛讀の諸姉からは感謝のお便りが山のやうです

どこへ行つても大變な評判です。

既に賣切の書店續出の盛況！再版は不可能です今スグお求め下さい

新年號に限り大附錄つき八十錢。平月號は五十錢……大日本雄辯會講談社

―元田衆議院議長筆―



好轉の曙光

川崎第百銀行頭取 星埜章

財界が好轉する場合の姿勢としては、此際先づ各方面において樂觀と悲觀との觀測が行はれる。この見地から昭和三年の財界を回顧するに好轉の兆に直面する

『機運』が動いたのではないかと思はれる。即ち

一、造船界では新造船が増加し各船舶の如きもトン數拍手に頭をもたげ出して來た。

一、セメント聯合會では操短の申合と共に操短率を緩和して來た

一、製紙方面に於ても印刷紙、卸紙の在荷率を減少して居る

然るにこれに引かへ鐵鋼や肥料方面では一層の減産を計つて居る。即ち製鐵と肥料と總て能率してゐる一方金融界は如何といふに、市中銀行の態度は未だ積極的に近づかざる現狀である點も重要な點である。相互扶助的に新機運を誘導すべきものでありながら、また大して銀行がこれに對應し得ないのは從來の經過時代として甚しやむを得ない所であらう。尤もこれは銀行家が時機の到來を待つて積極に轉向的態度に出でゐない結果である。然らばその時機は如何といふに

『政局』が安定して金融界の能率が強化し、しかして各種の市場が落つき銀行當者の方針が決定し得らるゝ時ともいふべきである。昭和四年においてその時機が到來するや否やは判らないが、彼にその時機の來らん事を望み、かつ財界には早くも好轉の曙光きざすにそのひらめきを望むしうると思ふ。

金融界の平衡が急務

男爵 郷誠之助

昭和四年の財界は金融業の觀點を信用に復歸せしむる事が急務であると思ふ。換言すれば四年度の財界が好況を來すと否とは、金融界の狀態を一日も早く平衡せしむる事である。抑も現在の金融界を見るに大銀行と小銀行との均衡が失はれた爲に財界におよぼす影響は甚大なるもので、殊に加へて大震災と金融界のパニックを經つた中間產業は又小銀行の

『疲弊』のため全く手も足も出ず、この狀態で經濟界の好況を望むのは無理であると思ふ。殊に最近の間、中産工業者は小銀行と連絡をとり小銀行は彼らをその御得意として取引をして來たものである。然るに現在の狀態では小銀行の力は甚だしく減殺され、これと反對に大銀行は資金潤澤でその放資先に苦慮を感じてゐるといふ狀態である。この結果從來小銀行の御得意であつた中產工業者が急に大銀行と取引を結んで取引をなす事は出來ないので、中產工業者はやむを得ず資金難に資料の融通を受けて居る狀態で彼の如にも時々破綻がくる次第で困つた事がある。この金融の圓滑を一日も早く平衡せしむれば實際の經濟出現は困難であるまいと思ふ。四年度の財界ではこれが重要なる問題である。其の一つは金融界に送くである。この問題はすでにその必要を認知して居るので緊が然めていふ事もないが、私はいづれかといへば解禁して困るのに解禁のみ解禁しえない理由はない。一部では頗る悲觀して居る者もあるが、そんな心配はないと思ふ。政府としても今斷行する事が一番よい

『時機』であると思ふ。

然しいづれの內閣も不景氣を招いては人氣に關係するから、自分の內閣では人の喜ぶ事をし人の厭がる事は次ぎの內閣にやらせやうとする傾向がある。まことに困つたものである。よつて今の政府には恐らく解禁斷行の勇氣はあるまいと思ふ。又斷行の結果一時的には不景氣がくるであらうが、それは解禁に伴ふ自然の結果である。要するにこの國に經濟狀態が世界共通となつたならば我が國の經濟界は初めて健全なる狀態になる。かつ能…に述べた大銀行の資金偏在が當然になれば、日本の經濟界は決して不景氣を喫する必要はあるまいと思ふ」と

金解禁尚早

男爵 中島久萬吉

金輸出解禁は素より望ましい事に相違なきも我國の現狀において解禁を斷行すべき必要は毫もこれあるを認めない。されば財界の金融難なる致命を避くるため可及的資金の準備施設をなし然る後にこれを行ふも決して遲しとしない。

一、財界をして今暫く金利低落、利下げの傾向に在らしむべし 我國財界の現狀より推して考ふるに金融緩漫金利安の影響をうけて事業家の中には借替によりて金利の負擔を輕減しつゝ事業の內容を整理しつゝあれば、また低利の資金を利用して事業の擴張又は新規を企てつゝある者もある。今日金解禁を斷行する時は此の金融緩漫金利安は一變して金融逼迫金利高となり、財界は或は事業整理の計畫を半途に挫かれ、或は折角仕掛けたる事業を萌芽のまゝに凋ませしむるに至るであらう。經濟的ながら今暫らく金融の現狀を持續せしめて之に依る產業の整理回復を今一段進捗せしむるが可いであらう。

二、特殊融通を若干程度まで回收すべし 特別融通は金利引上げに依りて回收を期することは出來ない。即ち中央銀行統制力の範圍外に在る所の財界の資金である。されば特別融通を若干程度まで回收した後に於て金解禁を行ふに非ずんば、一朝正貨流出の場合金利引上の手段に依りて其の勢を制壓し得べき中央銀行の力無く或は暫らく之が勢を防禦するの外なき事あるやも圖るべからず。即ち昭和三年九月末日の調査に據るも尚六億五千七百餘圓を剩し當初より今、までに減少し得たる所未だ僅に二億二千萬圓餘に過ぎず、留池んで大に之が回收を行ふの必要がある。

三、金流出の最も少なかるべき時期を選ぶべし

解禁の結果金の流出を見ることは各國を通じて殆んど例外なき所にして、我國も亦到底共例に洩るる事能はざるべければ、假令金の流出は免かれ得ざるにするも其の影響の最も少なかるべき時機を選んで解禁を行はなければならぬ。現在我が國に於ける解禁ゝ通の思惑放資は大部分既に引上げられて最早幾許も存する虞なかるべしとの事なれば之は顧慮に及ばざる問題として、我國國際貸借は多年歐に逆調にあり、貿易關係は昨年度以降稍や好轉の氣配なるも惟ふに金解禁後替相場回復の結果は、英國に於て見たるが如く輸入増加よりも寧ろ輸出減少の現象によりて新たに貿易入超の原因を作るに至らざるか。金解禁の結果として金融の緊縮を見るべきは必然の理なるが故に當局者の事には至らざるべしと雖も、當局者安定と共に我金融業者が其遊資を海外に放資する事は或る期間あるべきは未だ注目すべき一時的である此の點は我正貨流出にも點よりしては反つて輸出に性質のものなれども、一時的に之を通じれば必ずしも國際貸借逆調の一原因を作りすべき事は爭ふべくもない。

四、物價を及ぶべき物の國際水準に近く引下ぐべし 正貨の流出は通貨の縮少を來たし通貨の縮少は物價の低落を招くものなれば右の理由により金解禁は自然に物價及び金融利の前後の基因となるべき事由より然りと雖も、此の點に於ける物價事に金利の急激なる變動を避けんがためには豫め解禁に先ちて物價に及ぶべき限り國際平準に近く引下げなければならぬ。斯くして貿易逆調の程度を少からしむると同時にまた解禁に因る物價低落の勢を微ならしむべきである。此點よりして政府財政の緊縮は最も望ましく今日の金融緩漫時に於ける貸出の如き亦大に放しむべきである。

蘭

工藤壇雪氏筆

日本農業の特質と將來【下】

農學博士 佐藤寛次

三

日本の農家において、家族の數の少いといふことの原因は何であるかといへば、それは日本の農業が小農組織であるがためである。この小農組織の結果、我國の農業は、そこに不思議な現象を呈してゐる。即ち農業に從事してゐるものは、必ずしも強壯な若者ばかりではなくして、むしろ老人、女、子供といつたやうなものが可なり部分を占めてゐる我國の農業では

一人前の人間 ばかりが働くといふよりも、以上擧げたやうに、一人前の男に交つて、老人女子供等一家こぞつて働くといふやうな有樣である。これを普通の都會の俸給生活者等と比べて見ると面白い。例へば、俸給生活者においては大低一家族五人とすればその生活を支えてゐるものは、その中の一人に過ぎない。ところが、我國の農家においては、家族七人とすれば、直接生產に從事してゐるものは、少くともその中の四人位はある。このやうに我國の農業は他の如何なる職業よりも國民の多數に多くの仕事を與へてゐる。

大正十四年の農林省の調査によると、自作農において、農業に從事する男女の割合は、男百人に對して女百三人三分である。

次ぎに日本の農家の特徴として擧ぐべきものは、生産物の種類が非常に多いといふことである。これは、日本の如き

小農組織の國 でなければ見られない現象である。日本の農業においては世界の如何なる農作物も作つてゐないものはないといつてもいゝ程多種多様に栽培されてゐる。これは、一面日本の氣候が特寒つてないことにも基因すると思はれる。然し米を除いた外は、ほかの農作物はごく少量に過ぎない。

人間の食物は 特定の年月の經過と共に變化してゆくであらうといふことがある人々によつていはれてゐるが、然し私の考へでは多少變化するにしてもわれ／＼の日常の食物はさう根本的に變るものではないとおもふ。勿論、今と昔とは、われ／＼の日常とつてゐる食物について考へてもこまごました點において大部變つてゐる、例へば、昔は日本人はバタなどは全く知らなかつたが今日ではこれをたべる。然しそれだからといつて、日本人の常食が米のかわりにバタくさいものばかりになつてしまふとは考へられない。日本人は古い昔から米を常食とし、體質が米食に適するやうに出來あがつてゐる。また日本の風土氣候の點から考へて、米作が最も適當してをり、從つて我國の農業において米の栽培といふことを重大視さなければならぬ理由がある。

四

然らば、以上述べた我國の農業の特質はどの程度まで維持されるであらうか、また、その特質が維持つて行くとすればどういふ風に變つて行くであらうかといふことが問題となつて來る。

私の考へるところによると、我日本の農業がこれまで持つてゐた特質を維持してゆくとすれば、およそつぎの三點からであらうとおもふ。即ち

第一、社會生活の必要から傾動する

第二、經濟界の事情によつて傾動する

第三、將來の政策から傾動する

また我國の農業は、種々な點から考へてどうしても牧畜には不適當であるといふことは分る。

我國にかては 牧畜を經營しやうとしても、家畜を養ふための飼料作物たる牧草の栽培が不可能である。何となれば、牧草は主として四五月頃に取入れて、それを乾燥して一年間の飼料にするのであるが、丁度この牧草の收穫期は日本特有の梅雨期であつて、そのために折角栽培した牧草も腐敗してしまふ。かういふやうな譯で、我國ではどうしても牧畜業は適してゐない。ゆえに假りに此の一部分から農業において米の栽培よりも牧畜をより多く要求しても、牧畜業の發達は不可能である。

また、日本の農業を從來の小農組織から大農組織にすればいゝといふやうな主張もあるが、若し大農組織にするとすれば、今まで農業に從事してゐた可なりの人達が職を捨て、他の職を見付けなければならない。ところが、これらの農村の人口を充分に受入れる程に日本の工業は發達してゐるかといへば決してない。

日本の工業は 他の工業國と同様に、それ自身の中から、多數の失業者を生み出してゐる。これらの失業者にむしろ仕事を與へる余裕のあるものは、現在の農村をおいて外にない。これは我國の農業が他の國に見られない小農組織であるがためである。

今日、歐洲諸國の農業經營の傾向を見るに、これまで大農組織であつたものさへも、小農組織に變化しつゝあるといふやうな狀態である。從つて我國の小農組織を大農組織にかへるといふことは、世界の大勢に逆行するやうなもので決してほめたものではない。

次ぎに、農業の社會生活的觀察ということが、ロシアなどにおいては問題となつて、政府當局は非常な努力を拂つて農業組織の改善を計つてゐるが、今日までのところあまりよい成績をもたらしてゐない。

また、我國等においても、

最近小作爭議 が頻々として起こり、あるものはこの爭議の結果、農業經營が起こり、在來の農業組織の改造と根本的に違つたものが實現するかの如くに考へたものが、この小作爭議の結果、農業の現狀が根本的に打破されるといふやうなことはあり得ないと私は思ふ。勿論小作爭議が起こるについては、そこに種々なる缺陥があるといふことを私も認めるが、それに適つた方法によつてこれを防ぐことは出來ると思ふ。

今日の農村が、一般に疲弊してみるといふことは事實である。然しそれは、地主と小作人との正面衝突によつて解決されるものではなくして、むしろ今日の農村に堅固なる經濟組合が確立され、農業生活に必要なる種々の材料の共同購買および農產物の共同販賣の諸種々なることを秩序立つてやることによつて農村は救濟されると思ふ。私の希望はこの經濟組合の確立といふことであるが、若しこれが失敗するとすれば

農村は破滅す るであらう。これを要するに、最初に私が説明したごとく日本の農業は農家の特徴を維持しつゝ多少改善されて行くであらう。これが現在私に可能なる日本の農業の將來の見通しである。

實力の生活に歸らねばならぬ【下】

速かに金解禁を斷行して

三菱銀行取締役 山室宗文

米國 北米合衆國は過般の大統領選擧によりて依然共和黨政府が持續することゝなり、殊に次期大統領フーヴアー氏は實業家であるから今後米國の好況は益々繼續するであらう。而して好景氣に次ぐに好景氣を以てし其の極盛りにブームが起れて來るに一大恐慌を惹き起しはしないか。若しそんなことがあれば我國の生糸の輸出には大なる打撃を蒙り、從つて對米貿易の進退は免がれぬであらう。然し新に氏は實も云つた如、フーヴアー氏は實業家で且つ非常な手腕家であるから、其の邊の事はよく心得て財界の動揺を未然に防ぐことが出來るであらう。

支那 次に支那問題である。日支交渉が圓滿に進み諸懸案が解決せらるゝにつれて全國的ボイコットが終熄すれば我對支貿易は甚しく好轉し、それに人氣も加はりて景氣も恢復し、且各種商品も好轉を呈し、金解禁の遂行にも色々好都合になる譯だが然し支那問題の解決は個別に片づけられない難しい問題である。

もし私をして昭和四年度財界經濟界の金融に對して希望をいはしむるならば、まづわれ／＼は實力の生活に歸らなければならぬといふ事である。われ／＼は現在あらゆる方面において實力以上の生活をして居る。個人の日常生活においても國家の財政においても然りである。國際貸借においても常に多額の支拂超過を來たし、しかもそれを金輸出の禁止や外債募集による在外正貨の補充等人爲的政策を以て糊塗彌縫して居る。一時的の

『彌縫』は出來てもために我國經濟の基礎を漸次薄弱せしむるの結果となる。われ／＼はかゝる生活を打ち切りて緊縮斷行一方に國際の健全を計り、輸出に務を施行して輸出の增進による貿易の均衡をうることに努力せねばならぬ。我國經濟の現狀においては輸出貿易の振興がなければ國富の增進も出來ず、從つて好景氣の招來も望まれない。同時に輸出貿易を振興することが出來れば國ちわれ／＼は實力の生活に歸ることが出來るのである。

われが實力の生活に歸るために今一つの障碍となるものは六億八千萬圓の

『特別融通』である。此の特融は未だ覺するに無いものを有るが如く見積り、これを基礎として發行したのであつて此の實價以上の融通によりて休業銀行或は破產寸前なる銀行を救濟したのであるが、その資金が多くは少數の大銀行に集積して所謂資金の偏在となつたのである。若し特融の六億八千萬圓が實價ある財産や實際の商取引の基礎の上に貸出されて居るものならば、必ず他日これに相應する資金の需要が出來て資金の甚しき偏在は起らずにすむ筈である。實力以上に信用が膨脹して居るから金融は益々緩漫になる。故に特融は一刻も早く實價あるものはこれを換價して其の回收を計り、その不能なるものは早く損失として決定し、或は國債とか租稅とか何れにしても國民全體の負擔として、此の不合理なる特融を決濟しなければ何時迄も實力の生活に歸り得ない。

過去五ヶ年の我國の國際貸借を見るに一ヶ年の平均輸入超過額は四億八千七百萬圓に達して居る、それで外債の發行額や正貨以外の受取勘定を一緒に入れてわれ／＼は無戰前以上の生活をして居る譯である。

『實際』の生活力に適應の政策を行つてをつては決して吾國の好景氣は招來しうるものでない。一時の彌縫的なしかも無理な政策をやめ、經濟の實情に適應しなければならぬ。金の解禁はこれが爲の必要からしてもなるべく速かに斷行されねばならぬ。いづれにしても昭和四年度は我財界にとりて誠に重要な年ではないか、然し若干の困難が出來て公私の經濟をこれに適應せしめ、緊縮後の苦しみを經て國民擧つて國家の繁榮にまなかつたならば、必ず近き將來に財界の好轉を期待しうると信ずる。

恭賀新年

釜山大倉町 圖書 文房具 雜誌 博文堂

釜山大倉町 肥料 雜穀 農具 豊田福太郎商店 電話長七番

釜山大倉町 諸紙 問屋 北島紙店

釜山 合名會社 山利商店

釜山幸町二 各種土木建築材料 工業用品各種 角野商店 電話二三三番 振替釜山二二三番

榮町一 トバタ 發動機 販賣 弘中商會

釜山南濱町 御料理 うろこ 電話一三九六番

釜山南濱町 御料理 花月 長話三一四八番

釜山幸町 山崎呉服店 電話一四二七番

釜山南濱町 鰹節 海産物 鑵詰 守谷商店 電話長三三番

釜山富平町 日光焼酎 元醸造 增永釀造場 增永市松

釜山府大倉町三 日本紙業株式會社 釜山出張所

釜山精米業組合

釜山驛前 荒井旅館 電話七四三番 東萊温泉場 荒井旅館支店

釜山水產株式會社

釜山大廳町三 卸商 小佐助一郎 電話四三三番

釜山支店 日熊釜山支店

釜山大廳町 藤井綿商店 電話八一八番

釜山大倉町 合名會社 和田商店 和田周太郎 電話五四二番

釜山大倉町 各種農具商 朝鮮勸農商會 電話九六二番

釜山府本町一丁目 釜山營業所 電話一一五番 振替釜山二二五番

釜山辨天町 日の丸小間物店 電話八六二番

釜山本町三 合資會社 萩野商店 電話長三〇番 京城太平通一丁目 支店

釜山 迫間保太郎

釜山南濱町 御料理 觀潮閣 電話三三三番

クボタ發動機 總發賣元 杉山商店釜山支店 加藤修雄 松原良行 横田伊藤 大野三郎 鄭禎楠 朴河鎭 金灘奎

釜山辨天町 酒類 運動具 栗山商店

釜山支店 丸大朝鮮土木株式會社 代表取締役 米倉清三郎

釜山本町一丁目 山崎本店 電話四五六番 振替釜山四五六番

釜山土城町一 橋本猛商店 電話一三番

釜山商業會議所會頭 香椎源太郎

ミツワ浦項農場

慶尚北道 英陽昭和倶樂部

慶北安東郡 職員一同

慶尚北道 軍威官公吏一同

大邱府 山北光德

大邱醫師會

慶尚北道 高靈郡廳 職員一同

大邱憲兵隊

大邱府東雲町 山崎織平 電話一一八四番

大邱府 徐相日

慶尚北道農會 同畜產同業組合聯合會 同森林組合聯合會

己巳新年紙上名刺交換會

京城商業會議所議員 [illegible]

京城府々協議會員 山崎[illegible]

新田義民 南山町二

[illegible]

鎮海 松尾重信

大池忠助

淺野太三郎 京城大和町

[illegible]

鎮海 [illegible]

[illegible]

[illegible]

山根貞一

[illegible]

キリンビール會社京城支店 [illegible]

[illegible]

株式會社 丁子屋洋服店 小林源六

朝鮮商業銀行 山下秀隆

大田 [illegible]

平康郵便所長 吉田幹一

京城府長谷川町 宮林泰次

大田 [illegible]

大田 白石鐵二郎

小林藤右衛門

大田 青柳敬造

大田 [illegible]

大田 [illegible]

大田 [illegible]

京城府太平通り 谷野萬藏

大田 [illegible]

大田 北島常吉

大田 [illegible]

大田 [illegible]

京城商業會議所議員 [illegible]

大田村 今村[illegible]

大田 小沼[illegible]

朝鮮煙草元賣捌株式會社 井上清

[illegible]

大田 [illegible]

成田[illegible]

[illegible]

[illegible]

釜山 [illegible]

日本自動車株式會社京城出張所 吉田耕二郎

朝鮮總督府 園田寛

溫陽溫泉 永[illegible]友一

大田 [illegible]

一山 [illegible]

佐藤剛藏

大田 沼田[illegible]

[illegible]

[illegible]

鐵原酒造組合長 西谷國藏

大田 [illegible]

大田 [illegible]

[illegible]

謹賀新年

釜山綠町食堂　岡村正雄

釜山辨天町　旅行具　鞄製造　宇佐屋商店

釜山大廳町　疊表　家具商　倉橋定藏

釜山本町一丁目　寫眞器械材料商　岩瀨寫眞機店　電話七五五番

釜山大廳町　山下洗布所

釜山府南濱町　朝鮮漁業水産株式會社　電話長九五四番

釜山　五島誠助

釜山運輸事務所　荻原三郎

釜山南濱町一　夕西野爲作商店　電話一三九番

釜山府幸町三丁目　原木製材　各種製板　製材工場　若狹材木店　電話八五七番

釜山大倉町　那須正男

釜山大廳町　三重出版社　電話六六四番

釜山大倉町二　株式合資會社　肥料商　木下商店　電話二〇五〇番

釜山　片倉米穀肥料株式會社　釜山營業所

金堤料理屋組合　花の家　ニコ〳〵亭　壽樂　食道月　水

金堤　木曜會

金堤土曜會

朝鮮京釜線平澤驛前　平澤合同運送株式會社　電話一六番　振替京城五八五一番　電略〇

振威郡學校長一同

西井里郵便所長　北住確三郎

京畿道振威郡丙南面西平澤里　商業組合穀物部　主任　成周漢

朝鮮京釜線平澤　肥料　農具　穀物　スタンダード石油販賣代理店　西村商店　電話五四番

京釜線平澤驛前　醫師　平和醫院　金[illegible]　電話一二番

京釜線平澤　金橋商店　店主　岡本右一　振替口座京城三七七八番　電話三六番

朝鮮京釜線平澤驛前　平二商會　電話一四番

京釜線平澤　平澤病院　崔鍾完

朝鮮京釜線平澤驛前　垣內恒太郎商店　長電話九番

釜山驛前　佐々木旅館　電話六二番

仁川敎育會

振威郡廳職員一同

慶北聞慶　官公吏一同

成川郡森林組合

漆谷郡廳　同産業團體　職員一同

慶北淸道　官公吏一同

於朝鮮食料品々評會料理一等賞受領　營業課目　[illegible]　右器具物品御客切迎酬應　食道園　朝鮮京城南大門通一ノ六　電光四四一・二五一七番

京城敦義洞一四五番地　朝鮮料理元祖　明月館本店　電話光化門六四番六二番

京城瑞麟洞一三七　朝鮮料理元祖　明月館支店　電光一七七八番七二五番

大庭讓太郎　京城府旭町一ノ五三　電話本局八二八番

京城本町一丁目四十八番地（旭町三丁目通り）　電燈、電話、工事請負　電氣器具材料販賣　越田電氣商會　電話本局長一四三〇番　振替京城六五六七番

中樞院職員一同

京城女髮結組合

京城府南大門通二丁目　増田食料品店　電話本局二五三番

加藤商會　山田鈴太郎　京城府明治町一丁目　電話本局一四七二番

京城府明治町二丁目　宇治屋茶店　電話本局四二二番

京城黄金町一丁目　北京料理　雅敍園　電話本局[illegible]番

李王職掌侍司長　禮式課長　從四位勳二等男爵　李恒九

家具、糸類、毛糸、雜貨　京城府本町三丁目　増田本店　電話長本局一〇九

男爵　韓昌洙

京城明治町（本町北入）　豚しる久　永田久次　電本一九一〇番

京城府本町一丁目　本城屋　電話本局二三四三番

大正コンクリート工業所　坪川寅次郎

龍山驛前　東亞蠶絲株式會社

優良淸酒　福迎　京城府本町五丁目　難波酒造場　電話本局一四六一番　京城鍾路四丁目　同販賣所　電話光化門一一四五番

龍山榮町　松華　同元町　吐月　同岡崎町　三福　同漢江通　右田　同　新玉支店　同　軍人バー　同　九州亭　同　玉壽司　同　滿津美　同練兵町　藤屋　同元町　武の家　同漢江通　龍山軒　同元町　更科

龍山　南券番　電話龍山一〇二五番

金堤　穀物檢査所　金堤支所

朝鮮湖南線金堤邑內　味噌醬油釀造元　倉澤商店（朝本店）　電話三〇番

大阪屋料理屋　藝妓　艶太郎　藝妓　力彌　藝妓　福奴

赤井精一郎

永同警察署　署員一同

永同郡永同面　事務所職員一同

永同　重松酒釀場　電話三　振替京城九一〇九番

永同郵便局前　食料品日用百貨商　菊池百貨店　電話二六　振替京城七二二九番

朝鮮京釜線永同驛前　中澤材木店　電話三三番

永同郡山金融組合長　佐藤三郎

永同穀物商組合　組合長　宇都宮善市

永同　三宅勝三郎

永同郡廳　各産業團體

永同金融組合

永同本町三丁目　酒類食料品雜貨　荻田兼三郎商店　電話三九番

慶北慶州　割烹料理　福助

慶北星州　警察署長　石田幸治

慶北奉化郡　郡守　徐丙麟

朝鮮釜山府榮町三丁目　佐藤商會釜山支店

釜山活動常設館　幸館　相生館　寶來館

釜山　釜山染工合資會社　電話[illegible]番

釜山榮町　農具製造販賣　笹田商會　電話二一四二番

釜山大倉町　日出組運送部　電話四六六番　日出組自動車部

釜山南濱町　會席料理　觀海　電話一〇九番

釜山　石原源三郎

釜山　南鮮土木建築協會　電話長一四〇六番

釜山鎭埋築株式會社

東萊事務打合會

南北棉業株式會社　永同繰棉工場

東萊溫泉　內湯完備　荒井旅館　電話八番

釜山消防組頭　小宮萬次郎

大邱府廳職員一同

東萊溫泉　溫泉旅館　蓬萊館　電話五番

東萊溫泉場　溫泉旅館　鳴戸旅館

東萊溫泉場　新館落成　溫泉御旅館　內湯完備　東萊館　電話二八番

方魚津　株式會社　林兼商店　社長　中部幾次郎　電話四番

CHEVROLET

最も經濟的なる新シボレー號

新シボレー號の素晴らしい人氣は、其價格の低廉さ、運轉費の節約さ、瀟洒な美觀さ、輕快な乘心地に基因してゐます。別けても燃料の節約さ修繕費の僅少さ壽命の長久さは、シボレー號をして最も經濟的なる自動車たらしめる要素であります。新年の御乘用車に新シボレー號をお用ひ下さい。

幌型　定價　金千九百拾五圓（大阪渡）
セダン型　定價　金貳千四百九拾五圓（大阪渡）
インペリアルセダン型　定價　金貳千五百七拾五圓（大阪渡）

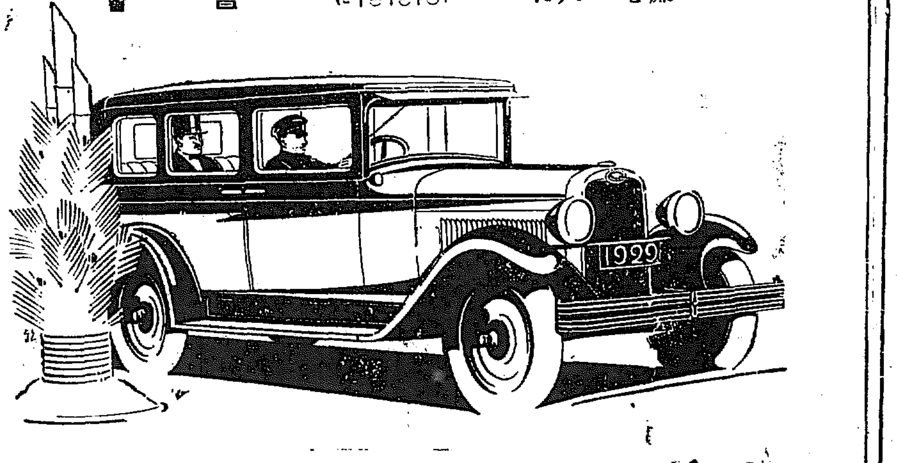
シボレー號はゼネラル・モータース金融會社による月賦販賣の便あり

日本ゼネラル・モータース株式會社
シボレー及オータランド特約販賣店
朝鮮中央及北部九道

W・Wテイラー商會
本店　京城府太平通二丁目四十番地　電話本局一一〇八、二三三三〇九番
支店　元山驛前通

副販賣店（平安南北道）平安自動車商會　平壤府旭町十一番地　電話四四番

型錄は販賣店にて進呈…純正部分品は必らず特約販賣店にてお買求め下さい



日本ゼネラル・モータース株式會社

シボレー號はゼネラル・モータースの製品なり

天帝一揆 (48)

佐藤惣之助作　多田穀三畫

大將たる修養

それと聞いて驚いたのは、大矢野と千々輪であつた。二人は驚き慌て、村々へ觸つけ、一揆の人々をあつめて評議することになつたが、森宗意軒は、籠城どして、誰が來るべきことを回想してゐるやうであつた。

「こうなれば又必死の覺悟をする時が來たといふものです。即ち小左衛門殿の弔合戰よりほかに手段もありません」

千々輪は主張した。

「さうぢや、主君を殺害して、一つ大がかりな弔合戰ぢや」

大矢野も應じた。

「籠城で大殿様ばかり弔ひの眞似をして居きましたが、多くこの地附の百姓共の鬱憤は非常に大きいので踊りました」

上総三左衛門が昨日からの[illegible]

そこで四郎の返答が一日千秋の思ひで待たれた。

夕刻になつて、軒山は四郎の返事をもたらして來た。

「大將殿は何と申された」

「四郎殿は泣き悲まれたであらう」

大矢野と千々輪が問ひつめる。

「いや豫想外のお返事でした。小左衛門殿のことは手前におよばぬことです。初めから父母の恩に背いて大道に順じた四郎は、おのおのを初め三萬の一揆の人々が父であり母であるから、一人の爲に一揆の士氣を落したくない。早々即座に此後の策を切り開けて下さい。小左衛門の弔合戰こそ僕一です。今日のなげきのことは、何卒心にかけて下さらぬやう――とのことです」

「ほう、即答されましたか」

森宗は初めて愁眉をひらいた。

「いや敬服致した」

大矢野は頼くなつて膝を正した。

「そこで、弔合戰の所謂が二隊するせう」

千々輪も勃々もしがつた。

「ではこの事を早速披露致しませうか、かれ等は力を失つて居りますので……」

三左衛門は立上つた。

「どうかさうして下さい。一人殘らず集まるやうに、そして四郎殿の言葉をはつきりわかるやうに傳へて下さい。」

森宗はほつとして立上がつた。

[illegible]説した。

「かれ等はよほど感服して居りますか。」

佐治木は心服してゐた。

「皆聲を放つて泣き悲んで居ります。」

「森宗殿、これはいかがなものでせう。」

「まづ四郎太夫殿の返答にあることです。このまゝ卧期にする譯にも行きますまい。上総殿お苦勞ながら一つ四郎殿へお願ひ下さい」

「誰をやりましやうか。」

「稲山殿にお願ひ致さう。」

そこで稲山茂左衛門が、天草の四郎のところへこの趣旨を齎らした。

「殿が、このことは四郎殿の返答にまつて定べなければなりません。この趣旨を申せて聞き遁しやうであつたらば、もう一揆の[illegible]も驕者と見なければなりません。凡そ將たるものは[illegible]、[illegible]紙一重でものですから。」

森宗の言葉は謝つてはゐたが、どこか嬉しい響きがかくされてゐた。

「それこそ大將です。大分修養が出來た。それだけの心掛がないと籠城といふものは觸くものではない。いや、大出來ました。」

俳句と蛇

今年は十二支の巳の年、つまり蛇の年に當たります。蛇といふものは妙なもので、さういけれると何となく蛇をおもひ出します。それで昔から俳句に蛇がどんな風に詠はれてゐるかをお話して見ませう。元來蛇といふ奴は見た眼にはあまりいゝ氣持ちのものではありません、あの複雜な色彩を美しいと強いていへばいへない事もないでせうが、それは極めて技巧的に表現された「惡」の美です、從つて蛇そのものをそれ自身美しいとして謳つた俳句といふものは殆ど見當たりません。ところがまたそれだけに蛇に對する恐怖感から轉化して蛇を神秘化した觀念は隨分強かつたと見た、さうした俳句はかなり多く見當たります。俳句ばかりでなく蛇を神のお使として或る場合には畏れ敬んでゐたこともあり西洋の神話でアダムとイヴに智惠の木の實を食べることを唱に使嗾したのは蛇であることも皆さん先刻御承知の通りです」

神いまだ穴を出でず白蛇哉　子規

御承知の明治俳壇の中興の祖正岡子規の句です。神まさに世に出でまさんとして、御使ひの蛇がまづ地上に現れました。白蛇のいかにも神の御使ひらしい清浄な姿、かうなると蛇も「惡の道」などは微塵もなくなんと神々しくも響いてはありませんか。

蛇穴を出て三分の天下かな　子規

天下は群雄の如く割れて、三つに分され、曹操は暗く野望をはらんで低迷してゐます。穴を出てこの形勢を見てとつた小さい一匹の蛇は、何事か期するところあるもの、細くちつと鋭光りのする眼を輝かしてゐます。やがて何かが起こらねばなりません。

あなう世や知らぬ蛇穴出　一茶

「う世」は「憂き世」の意味。通俗の詩人、文化文政期のプロレタリア俳諧家小林一茶の句だとさへいへば説明するまでもなくお判りになる句です。諧謔的價値はともかく、なんと一茶らしいいひ方ではありませんか。

良の所も谷歎の蝮かな　蕪村

「まむし」は「くちばみ」ともいひます。強烈な太陽の下、静かな谷間の叢から一瞬のリズムを打つて、かすかな音が斷續して聞こえて來ます耳をすますとそれは蝮の合ふかいまむしのいびきで、そのいびきにつれて夏の大氣が呼吸してゐるのが感ぜられます。

野茨の花白うして蛇の衣　子規

穴を出ると蛇は古いからを脱ぎかへます。野茨の花白く咲くあたり銀色の蛇のからが一と筋かゝつて輝いてゐます。フレッシュな情景

古婆が肩に蛇の衣　一茶

永い人生を生きつくしたやうな老婆と、生き身の脱けた蛇の殼の對照、凄惨な、しかも象徴的なものが迫ります。

[illegible]　丈草

蕉門十哲の一人、丈草の作ですが、取りたてゝ説明を要する句でもないでせう。

諸暗いて夜蛇を追ふ小家かな　蕪村

蛇は嫌ふといはれてゐます。

蛇落ちて暗く沼の若葉かな　支鳩

[illegible]

蛇穴に入る　一茶

蛇の穴　同

蛇穴に入る　同

蛇穴に入る　子規

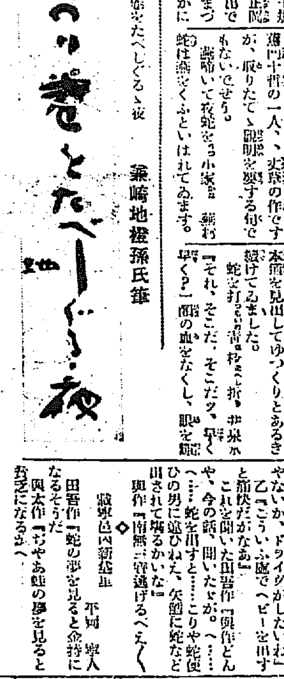
蛇は寒の彼岸に穴を出て、秋の彼岸にもとの穴に入るといはれてゐます。[illegible]

蛇嫌ひときけば雉が嫌ひだつ　蕪村

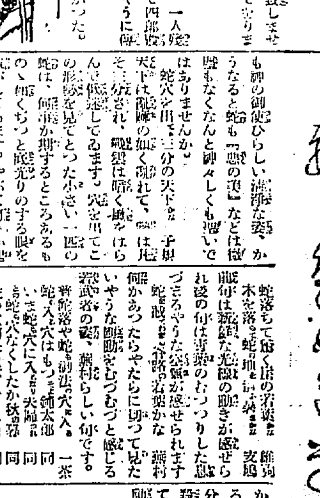
[illegible]

蛇を見て[illegible]　碧梧桐

「それ、そこだ、そこだッ、早く早く？」[illegible]



◇―卵をのり越えたへしぐるゝ夜　兼崎地橙孫氏筆



甲家朝　はつ日影あやにとうとき草屋かな　井上日石氏筆

新年文藝　川柳

題「新年雜吟」　井上劍花坊先生選

天　瞑想のまぶたに赤い初日の出　（平山倉地洞別方）　井上柳下

地　初日今生れんとする力なり　（金剛南道木浦驛）　湯江梵字

人　投げ込んだ賀状の束に春の音　（平壌泉町一三）　吉川一二三

追加　加羅國に君が代の春浅返り　井上劍花坊

五客

○婦人達新年號の嵩で來る　沼州　片岡　莽々

○火鉢の門に淋しい名刺受け　京城　栗田　眠柳

○雜煮箸ぽつきり春の音で折れ　大田　山口雄心坊

○酉場の春は小豚の聲がする　海市　藤岡　露水

○指折りを一つふやすを下に數へ　京城　しげる

○米つ子ののぞみ聞いてる賦落　元山　兵藤　冷花

○初日の出拜めるのぞみを旅を見る　淸州　園部　鈴鈴

○書初めの筆跡らの涙へ込み

○カレンダー第一日を剝ぐ捨て　仁川　河内　木宗

○金と井李とお日本の旅を立て

○元日は八千萬の日の御旗　春川　木內　露樓

○文明の世でも御題は變らない　龍山　照崎　桃村

○赤坊を笑はれて猿舞ふて居る　京城　石井赤知郎

○こゝまでは讀んだ手垢がついて居る　淸涼里　田舍人

○初夢の破れはやはり破れ家　京城　中野　茶々

○[illegible]散らす初日の出　開城　伊藤　規組

○火鉢の身にも初日のどつしりと　京城　柴田　柳太

○賤入りの子が良くしやべる様になり　京城　森田紫念坊

○松の內貝のらのらと明けて暮れ　雄基　島田　吐流

○お雜煮の膳に揃てない椀が鳴り　金堤　岡宗　庵非

○飛行機で手輕い伊勢の初詣　利川　川井八九十

○元日の弾顔四つ先ひくふるへ　元山　內山田銀柳

○不二のある國に大きい初日の出　[illegible]　昭葉　一茶

○お正月さすが四角に酔つてゐる　龍山　風間　一歩

○病院で春を迎へて暗くみる　京城　金昆須太郎

○[illegible]　元山　羽田十の字

○何事も無く元日の空晴れる　京城　城口忠四郎

○逃げのびた工面もつかずもう三日　京城　余九　赤牛

○さんらんの初陽に鶏のたかぶれる　龍山　森　巨樓

○火宅の呑んでも淋しい三ケ日　仁川　信岡柳葉子

○斷髪のせめて賭いたい三ケ日　京城　小松原蛋殼樓

○子を中に年始廻りの賑ましさ　京城　小栗　政之

○紺屋の手去年染まつた儘でゐる　京城　華木

○生きて居る印の賀狀が舞ひ込んだ　南原　在六

○初刷りを朝鮮の山にひろげたる　木浦　笠坊

○資俗の初陽をあびる支那駐兵　安城　細田　刃

○子を持たぬ淋しさ重ね催諸師　价川　中垣　天香

○敬老の村へにつこり初日の出　京城　現村　悟浮

○三角の家初弾きのマンドリン　仁川　岩部　琉坊

○くれないの旭に初明の鶴が飛び　殷興　大石　久

○大臣の賀狀生まれた村に來る　京城　[illegible]

○元旦もやはり窓に[illegible]

○叔肩の居で拜賀の位置をきめ　太鼓坊

○羽子板のまだほしさうな赤ちぬ　京義　長瀬　鴉骨

○拘引の容器を見てる松の井　大邱　井上鳳來坊

○野つ原に立つて小さい吾を知る　龍山　風間　一歩

○元日の今朝雄鶏の誇りなる　京城　板野すみれ

○萬象の明るく見える今朝の空　黃海道　平岡　丘陽

○辨天も混じり旅行多の賑はしさ　京城　宮津　岳翁

○居並びて雜煮の子等の靜かなる　京城　留口　神王

○神棚の餅へ鼠は齒を立てる　光州　高田　白紅

○揃體に脫線するが無礼なり　光州　金井芳の人

○赤貧を勵ます如く初日の出　京城　國本　冒也

○生延びてただ無事といふだけの春　京城　小川　柳子

○母ちやん羽子つかせ一人が見　京城　猪股　鋼三

○謎砂へ大迎面なく新みあがり　龍山　佐藤　西助

○初日の出大く丸く浮き上り　京城　中上耕翠

[illegible]

新年文藝　一口噺

課題「蛇」

◇京城本町三　徳川內　春野　彩花

甲『米國では蛇を裝身具に用ひる事が流行つてゐるさうだ』

乙『ハヽン黒燒位いではないと見える……』

◇江原道春川面昭文里　木內　都子

甲『この子は偉い大人もかなはんよ』

乙『巳年生れだらう』

甲『よくわかるね』

乙『そうさ、蛇は寸にして人を呑むといふもの』

◇京城光熙町一丁目十六　秋田內　スマ

易者に向ひ『先生蛇の夢を見たら錢を拾ふとか言ひますが私は拾ひません』

『フンそれはおまへは逃げたからさ』

◇成北雄基港中學校一九五　島田　默童

先生『若し、皆さんが山中を掘りて行くとき突然大きな蛇が出て來たら何うしますか？』

ランニング選手の中學生『ハイ先生！ヘビーをかけて逃げます』

◇京城三坂通官舍の四七　將野　博

スマートな青年甲『いゝ天氣じやないか、ドライブがしたいね』

乙『こういふ處でヘビーを出すと痛快だがなあ』

これを聞いた田吾作『與作どん、今の話、聞いたかい。へ……蛇を出すと……こりや蛇使ひの男に違ひねえ、矢鱈に蛇など出されて堪るかいな』

與作『南無三寶逃げるべえく』

◇咸鏡南道[illegible]　平河　寅人

田吾作『蛇の夢を見ると金持になるそうだ』

與太作『おやあ蛙の夢を見ると貧乏になるかへ』

見よ　第二號又々大附錄つき！

新雜誌　朝日

果然創刊號は記錄破りの賣行、然し我社は之に滿足せず、更に大飛躍した第二號こそ、創刊號より遙かに／＼飛抜けて面白い、どの頁開いてもグツとくだけて柔かく、老若男女誰にでも無限の感動を與へる大雜誌！

――内容の一端すでにこれ！

悲絶 壯絶　男子の涙

◎田中首相の涙

◇大谷嘉兵衛翁の商魂

◇山下源太郎將軍の一言

◇尾上菊五郎涙の才覺

◇犬養毅三代羽織の嘆き

大人物立志の動機[illegible]

世界三大女傑傳

◎驕婦淀君

◎女王クレオパトラ

◎妖婦楊貴妃

世界の旅

◇世界山水巡禮……（海外旅行家）井上雅二

◇いくらで世界一周出來る……（ツーリストビユーロー主事）山中忠雄

愈々波瀾をまき起した本號の長篇小説！

見果てぬ夢　三上於菟吉

純情の乙女に惡魔の唇！

（冒險物語）大東回天記　山中峯太郎

（怪奇探偵）孤島の鬼　江戸川亂歩

（天下名篇）黄色い窓　細田民樹

此他傑作小説大讀物數十篇！

新雜誌「朝日」の小説はドコへ行つても大評判

面白いく讀んだら堪らぬ！

家庭讀物百選集

家庭醫學や、お白粉の研究はお子様の爲にもゼヒ必讀、この他いとも樂しき家庭もろ／＼の得がたき讀物滿載！何が出るでせう

◎天佑俠豪快物語　内田良平

◎革命の導火線……滿鐵社長　山本条太郎

◎帝國憲法起草に纏はる秘話……樞密顧問官子爵　金子堅太郎

お待ち下さい！

八日發賣

（特大附錄つき）◎五十錢

東京市小石川　◎博文館

謹賀新年

仁川府町二四 漁野五郎商店 電話一二四番

仁川新町 時計眼鏡 文具 野田商店 電話四四番

仁川本町 河野自轉車店 電話三六五

仁川驛長 遠藤林壽

仁川本町 和洋雜貨 大石商店 電話四〇番

仁川宮町 鈴木硝子店 電話九一四番

仁川本町 鐵物 建築材料 藤木商店 電話四〇番

仁川宮町 カフヱーキンパ 電話四五九番

仁川府仲町 たわし 西川平次郎商店 電話二四三番

仁川山手町 倉重醬油釀造場

仁川神社 磯野勝見 電話二五番

仁川本町 川口靴店

仁川濱町 御料理 大吉 電話一四番

仁川府內里 綿布商 朱命基 電話九四六番

仁川府本町 文具商 中川勝美堂 電話四一番

仁川府本町三丁目 共益社出張所 中村虎三 電話四三〇（二八六）番

仁川花町三ノ六 穀物商 福西商店 電話三三六番

仁川府新町 清酒 醬油 高雄支店 電話三七七番

仁川府海岸町四丁目 米穀 貿易商 廣池為作 電話二六七番

仁川府宮町 服物 吳服 村上貞市商店 電話六二一番

仁川府敷島町 隱塚種苗園 電話二七三番

仁川府花町ノ一 洋酒 サイダー商 中山宇之吉 電話七二番

仁川府仲町 料理店 天狗 電話六番

仁川府仲町二丁目 壬生醫院 電話六一六番

仁川府宮町 料理店 食道樂 電話二五五番

保健衛生劑 アルソリン 仁川驛前 中外薬房

仁川新町 仁川葬儀社

仁川仲町 丸山組

仁川府宮町 食料品 雜貨商 中村嘉兵衛本店 電話四六二 四三七

仁川 安座上眞

仁川 森田初太郎

仁川 河合律三郎

仁川府山手町 能治歯科醫院 電話三五〇番

仁川仲町 村尾重男 電話四二三番

鐵道局諸官衙御用 各銀行御用達 ハムソーセージ 生菓子調進 果實 缶詰 卸小賣 松尾勝商店 仁川府新町 電話八〇 九八七

仁川花町一〇 松尾勝商店 第一工場 同 第二工場

仁川 松尾勝商店 京城出張所 主任 石川滿 京城本町三丁目

仁川美術倶樂部 仁川宮町

新宿御苑 坂梨テル

敷島町 主任 松尾勝 電話五〇二番

仁川府花房町 御料理 中條榮藏 電話六二〇

禮物商 依知川商店 電話八一六

五頭の寶芳露 渡會庄作 電話四九番

全南光州 土木建築請負 岩瀬靜

仁川府海岸町二丁目 三井物產株式會社仁川支店派出員 細谷芳三郎

㊇ 仁川宮町 ゴム白工作所 電話九八二番

朝鮮海事會仁川支部 船舶給水部

仁川 內海淑郎

仁川 渡邊秀雄

仁川 今村覺次郎

仁川本町四丁目 朝鮮信託株式會社 電話一三二番

仁川築港通 ベンネット商會

仁川 吉田秀次郎

仁川穀物協會內 ㊆ 仲立組合

新義州電氣株式會社

滿鮮殖產電氣株式會社

村木組 下垣春吉 電話四九番

全南光州 土木建築請負業 松田房熊

光州公立普通學校長 山本哲太郎

木村齒科醫院 東京齒科醫學士 木村澄男

全南和順郡 松井鶴松 外業員一同

全南光州 黑瀬豐藏

全南光州本町通 料理店 福井亭

全南光州仲町 料理店 池上民夫

全南光州面協議員 辯護士 藤本一二郎

全南光州本町 フォード自動車販賣 南鮮モーター商會 電話五一四番

大邱府東城町 大邱牛乳販賣所 電話五五八番

慶北 原蠶種製造所 職員一同

全州刑務所

全州 田代林二 電話一〇番

全州郵便局

全州初等學校一同

全州酒造組合

全州大正町四丁目 泉屋旅館 電話三六番

全州面職員一同

全州大正町四丁目 鎭安自動車部 電話四〇番

湖南銃砲火藥株式會社

全州郡廳職員一同

全州料理屋組合

全州相生町 全州遊廓組合

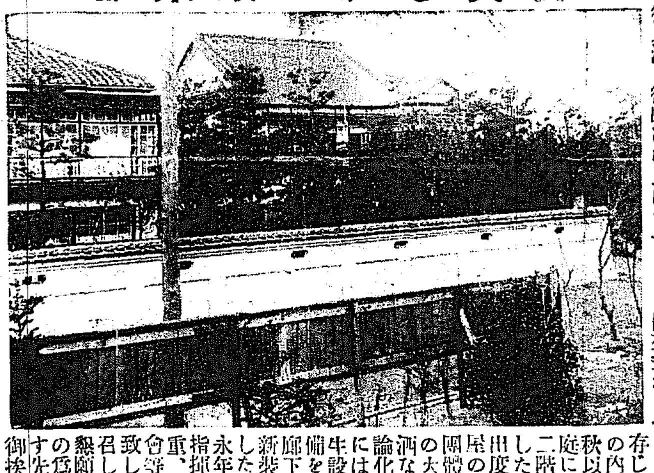
全州專賣支局 食堂員一同

日記 五日

性の衰退に苦悶せしは昨日の夢か トツカピンのんで言外の強味を覺ゆ

新館落成

新装なれる東萊館



東亞の玄關滿鮮第一の泉都

東萊溫泉に出現した新装の東萊館

内容の施設は溫泉場第一

各位の御清榮を慶祝致します陳者私事豫て御案内申上げました通り嚢に蓬萊館經營から元東萊ホテルに移轉し屋號を東萊館と改め營業致しましたが何分とも手狹にして御入浴を御願ひ申上げますことも出來兼ね、皆さまの不愉快この上も無きことゝ存じまして、眞先に客室、湯槽等の內容の改造に着しますと共に本秋以來全力を盡して風光佳景の裏庭に總坪數二百坪に餘る純日本式二階建の大建築に取り掛つてゐましたが、いよ〳〵今回工事竣工目出度落成致しました、その新築家屋の內容は客室十室（控間付）と團體宿泊及大宴會場として五十疊の大廣間、何れも新築の香高い瀟洒な感じのよい部屋で、採光は勿論化粧室、洗面所、理髮室、浴室には卓上電話、便所に洗滌式の衛生設備として遺憾なく最新式の完備を致し、舊館より新館への渡り廊下は目先變つて面白く東萊館の新装は天地一變の大改善となりました尚ほ同館では藤井帳場以下、永年勤續の女中を女將のトラ女が指揮して、一層浴客に對し親切鄭重、便利を圖ると共に宿泊料、宴會等の如きも最も低廉に極力勉強致します、何卒皆樣の東萊館と思召して御利用下されんことを偏に懇願奉ります尚本年も御避寒入湯の爲御來館下され度御待申上げます先づは新館落成の御通知を兼ね御挨拶迄

溫泉御旅館 内湯完備 家族湯 親切叮嚀

東萊溫泉 東萊館

東萊館主 五島トラ 電話二十八番

喜樂館 一月五日より公開 大日活會社新春名畫 日活現代劇 落花剣光録 十巻

東亞倶樂部 京都マキノ社作品 狂戀呪文 八巻 田園なつかし 九巻

中央館 マキノ 奉闘屋キートン 全八巻 バスター・キートン氏主演

京龍館 一月五日より新年第二回興行 彗星の勇者 全八巻 緋鹿子草紙 全十巻 纈斑蛇 全篇四巻

大正館 街頭の騎士 七巻 渦紋流し 九巻

浪花館 迎春の大興行は大阪より 若手花形揃大一座 元日より花々敷く午後四時開幕 激流 後編

朝鮮郵船 博多航路 咸北丸

○仁川出帆（代理店國際通運支店）
京城行 天安丸 一月二一日
大連行 常昭丸 一月一一日
長崎三角鹿兒島行 國南丸 一月一四日
木浦行 呂県丸 一月一一日
大連行 羅南丸 一月八日

○木浦出帆（代理店山野回漕店）
京城行 金剛山丸 一月一〇日
大阪行 常昭丸 一月一三日
濟州島行 濟州丸 一月九日
多島海行 統營丸 一月一一日
仁川行 呂県丸 一月一六日
釜山上海行 平安丸 一月一四日

○釜山出帆（取扱店大池回漕部）
東京西鮮行 金剛山丸 一月一二日
東京北鮮行 長白山丸 一月一四日
大阪西鮮行 常昭丸 一月一五日
大阪北鮮行 京畿丸 一月一〇日
長崎三角鹿兒島行 羅南丸 一月五日
大阪（釜山線）行 成鏡丸 一月一一日
上海行 平安丸 一月一六日

○元山出帆（代理國際通運支店）
東京行 長白山丸 一月一二日
大阪行 清州丸 一月一五日

●日本郵船出帆
右之外各地共臨時臨時船ヲ配船致シ候間ノ御用ヲ被仰付度候

京城南大門通 日本郵船株式會社
電話本局（四一九五番 四一九七番）